Canon

PowerShot SX20 IS

カメラユーザーガイド

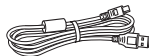
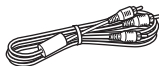
日本語

- ご使用前に必ずこのカメラユーザーガイドをお読みください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。
- CD-ROM内の電子マニュアル（PDF形式）もあわせてご覧ください（p.2）。

カメラと付属品の確認

お使いになる前に、以下のものが入っていることを確認してください。万一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ

単3形アルカリ電池（4本）

インターフェースケーブル IFC-400PCU

ステレオビデオケーブル STV-250N

ネックストラップ NS-DC4

レンズキャップ

レンズフード LH-DC50

カメラユーザーガイド（本書）

DIGITAL CAMERA Solution Disk

保証書

サポートガイド

電子マニュアルについて

ソフトウェアのインストール後、デスクトップのショートカットアイコンをクリックすると、以下の電子マニュアル（PDF形式）を参照できます。インストールができないときは、CD-ROM内の「Readme」フォルダからご覧ください。

- **はじめよう！おうちプリント**
  カメラとプリンターをつないで印刷するときにお読みください。
- **ソフトウェアガイド**
  付属のソフトウェアを使うときにお読みください。

- メモリーカードは付属されていません。
- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

はじめにお読みください

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万一カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の相談窓口へご相談ください。

液晶モニターとビューファインダーについて

- 液晶モニターとビューファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られている場合は、はがしてから使用してください。

長い時間使う際のご注意

このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

メモリーカードの記載について

このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

やりたいこと目次

撮　る

見　る

動画を撮る／見る

印刷する

残　す

その他

目次

このガイドは、1～3章までの説明で、このカメラの基本的な操作やよく使う機能がわかるようになっています。4章以降は高度な機能を説明していますが、読み進めることでステップアップできるようになっています。

5 もっとカメラを使いこなそう................................81

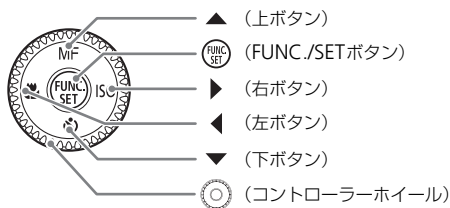
6 動画のいろいろな機能を使ってみよう 107

7 いろいろな再生とその他の機能を使ってみよう...........115

8 カメラの機能を自分好みに変えよう 141

9 カメラを使うときに役立つ情報 155

このガイドの記載について

- カメラのボタンやスイッチは、ボタンやスイッチに表記されている絵文字を使って示しています。
- 画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- 十字キー、コントローラーホイール、FUNC./SETボタンは、それぞれ以下の絵文字で示しています。

- ：困ったときに手助けとなる内容を示しています。
- ：上手に使うためのヒントを示しています。
- ：注意事項を示しています。
- ：補足説明を示しています。
- （p.xx）：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は､あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちの場合は、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

⚠ **警告**　死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

⚠ **注意**　傷害を負う可能性がある内容です。

注意　物的損害を負う可能性がある内容です。

⚠ 警告

カメラ

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**
  視力障害の原因となります｡特に､乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**
  ストラップ：誤って首に巻きつけると、窒息することがあります。
  カード、日付／時刻用電池：誤って飲み込むと危険です。万一飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。
- **分解、改造しない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは、使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**
  感電、火災の原因となります。
  万一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ず電池を取り出してください。
- **指定外の電源は使わない。**
  感電、火災の原因となります。

電池

- **指定外の電池は使わない。**
- **電池は火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**
- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
  電池が破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

その他

- **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**
  音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用したときは、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用したときは、スピーカーなどの破損の原因となります。

⚠ 注意

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**
  けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- **以下の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40度を超える高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

  電池の液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。また、カメラが熱により変形することがあります。

- **長時間再生すると、不快感を感じることがありますのでご注意ください。**

- **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**
  やけどや故障の原因となることがあります。

注意

- **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**
  撮像素子が損傷する場合があります。

- **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**
  故障の原因となることがあります。

- **ストロボに汚れやホコリなどの異物が付いたときは、綿棒などで取り除く。**
  そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因になることがあります。

- **使用しないときは、カメラから電池を取り出して保管する。**
  カメラに電池を入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

- **電池を廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**
  他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となります。

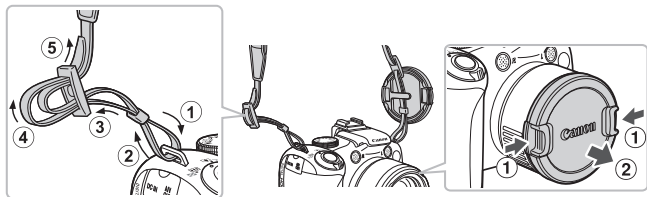
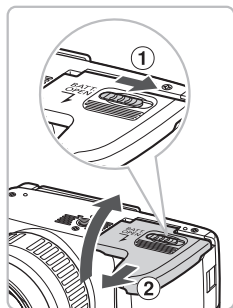
- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないように、液晶モニターを内側に向けて閉じる。**
  硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

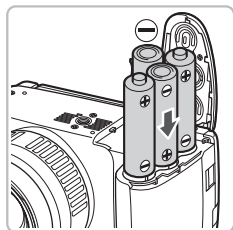
1

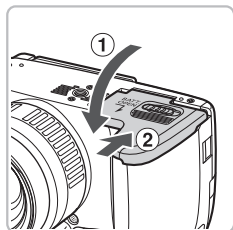
さっそくカメラを使ってみよう

この章では、撮影前の準備、AUTO（オート）モードでの撮影、画像を見る、消す、印刷する一連の操作について説明しています。また章の後半では、動画を撮る、見る方法や、パソコンに画像を取り込む方法について説明しています。

ストラップを取り付ける／レンズキャップを外す

- 付属のストラップをカメラに取り付け、撮影時にはカメラを落とさないように、首にかけてお使いください。
- カメラの電源を入れる前に、必ずレンズキャップをはずしてください。
- はずしたレンズキャップはストラップにかけておくことをおすすめします。
- カメラの使用後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。

電池を入れる

1 ふたを開ける

● ①の方向にスイッチを動かしたまま、②の方向へふたを動かして開けます。

2 電池を入れる

● （+）（−）を正しくあわせて入れます。

3 ふたを閉める

● ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

撮影できる枚数の目安

電源		アルカリ電池（付属品）	ニッケル水素電池（別売）
撮影枚数	液晶モニター表示時*	340	600
	ビューファインダー表示時	350	620
再生時間（時間）		12	14

* 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 撮影枚数は、撮影条件により少なくなることがあります。
- アルカリ電池は銘柄により、撮影枚数が大きく変わることがあります。
- ニッケル水素電池は、フル充電状態での枚数です。

使える電池

単3形アルカリ電池と、キヤノン製単3形ニッケル水素電池（別売）（p.38、40）です。

指定された電池以外は使えない？

指定した電池以外は性能にばらつきがあるため、おすすめできません。

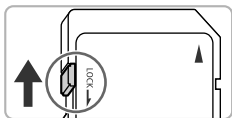
ニッケル水素電池を使うメリット

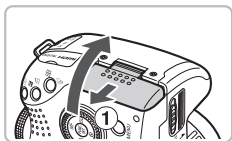
アルカリ電池に比べて、より長時間（特に低温下）カメラが使えます。

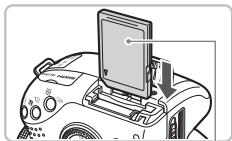
電池の残量表示

電池の残量が少なくなると、画面にマークやメッセージが表示されます。電池の残量がある場合は表示されません。

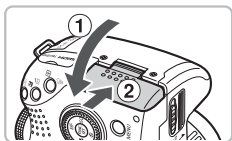
画面表示	内容
（電池残量マーク）	電池の残量が少なくなってきました。引き続きカメラを使うときは、新しい電池を用意してください。
[バッテリーを交換してください]	電池の残量がありません。新しい電池に交換してください。

カードを入れる

1 カードのスイッチを確認する

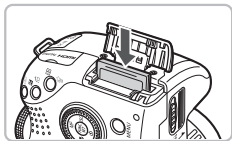
● スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。

2 ふたを開ける

● ふたを①の方向に動かして開けます。

ラベル面

3 カードを入れる

● カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
● カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違って入れるとカメラの故障の原因となります。

4 ふたを閉める

● ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

カードを取り出す

●「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を放します。
▶ カードが出てきます。

1枚のカードに撮影できる枚数の目安

カード	2GB	8GB
撮影枚数	626	2505

- カメラが初期状態での枚数です。
- 撮影枚数は、カメラの各種設定、被写体、カードにより変わります。

撮影できる枚数を確認するには？

カメラを撮影モード（p.24）にすると画面で確認できます。

使えるカード

- SD（エスディー）メモリーカード
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード
- MMC（エムエムシー）カード*
- MMCplus（エムエムシープラス）カード
- HC MMCplus（エイチシーエムエムシープラス）カード

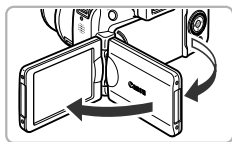
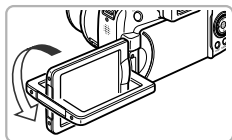
*「MMC」は、「MultiMediaCard」の略です。

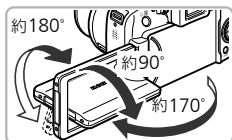
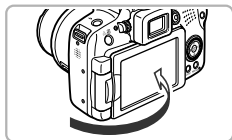
カードのスイッチは何のスイッチ？

SDメモリーカードとSDHCメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）というスイッチがついています。このスイッチが「LOCK」側になっていると、画面に［ライトプロテクト］と表示され、撮影することや撮った画像を消すことができません。

液晶モニターを開く

画像を確認しながら撮影するときや、メニューを操作したり、画像を再生したりするときは、液晶モニターを使います。

---

1 液晶モニターを開く

2 液晶モニターを回転させる

- レンズ側（液晶モニターの上側を後ろに倒す方向）に180°回転させます。
- ▶ 画像が鏡像（左右反転）表示されます。

- 液晶モニターはいろいろな方向で使えます。

3 液晶モニターを閉じる

- 液晶モニターを、「カチッ」と音がするまで閉じます。
- 画像の左右が正しく表示されます。

> カメラを使わないときは、液晶モニターを保護するために、必ず内側に向けて閉じてください。「カチッ」と音がするまで閉じると、液晶モニターは自動的に消灯し、ビューファインダーに画像が表示されます。

> 鏡像表示は、MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面で、[📷] タブの［鏡像表示］を選び、◀か▶を押して［切］を選ぶと、設定を解除できます。

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。

2 日付／時刻を設定する

- ◀か▶を押して項目を選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して設定します。

3 設定を終了する

- FUNC.SETを押します。
- ▶日付／時刻が設定され、［日付/時刻］画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

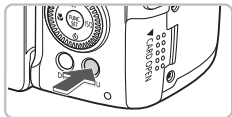
? 電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されるときは？

日付／時刻を設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］の設定画面が表示されます。正しく設定してください。

サマータイムの設定

手順2で［☀］を選び、▲か▼を押すか◎を回して［☀］にすると、サマータイム（1時間プラスされます。）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 [ҮҮ] タブの [日付/時刻] を選ぶ

- ◀か▶を押して [ҮҮ] タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して [日付/時刻] を選び、(FUNC SET)を押します。

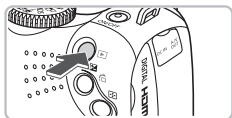
3 日付／時刻を変える

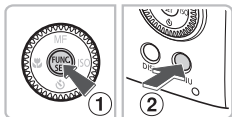
- p.19の手順2～3の操作で設定します。
- MENUボタンを押してメニュー画面を消します。

日付／時刻用電池について

日付／時刻を正しく設定しても、電源を入れるたびに [日付/時刻] 画面が表示されるときは、日付／時刻用電池を新しい電池に交換してください（p.156）。

表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

1 再生モードにする

● [▶]ボタンを押します。

2 設定画面を表示する

● [FUNC./SET]を押したまま①、すぐにMENUボタンを押します②。

3 言語を設定する

● ◀か▶を押すか◎を回して言語を選び、[FUNC./SET]を押します。

▶ 表示言語が設定され、表示言語の画面が消えます。

? [FUNC./SET]を押したら時計画面が表示された？

手順2の操作で[FUNC./SET]を押してから、MENUボタンを押すまでの間隔が長いと、時計表示になります。時計表示になったときは[FUNC./SET]を押して時計表示を消して、もう一度手順2の操作を行います。

言語設定は、MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面で、[🔧]タブの［言語］を選んで設定することもできます。

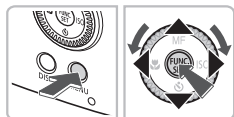
カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから初期化してください。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

● ◀か▶を押して［ʏᴛ］タブを選びます。
● ▲か▼を押すか◎を回して［カードの初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期化する

● ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
▶ カードが初期化されます。
▶ 初期化が終わるとメニューに戻ります。

カード内のデータは初期化や消去をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消えません。譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは二段階で押せるようになっています。ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから撮影します。

1 半押し（一段目まで浅く押す）

▶ピント合わせや明るさなど、撮影に必要な設定が自動的に行われます。

▶ピントが合うと、電子音が「ピピッ」と2回鳴ります。

2 全押し（二段目まで深く押す）

▶シャッター音が鳴り、撮影されます。

● シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。

カメラの構えかた

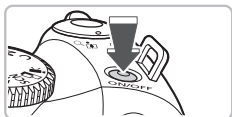
撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構えてください。

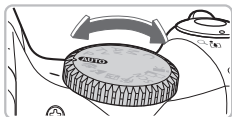
シャッター音の長さが変わる？

- 撮影にかかる時間は撮影シーンにより変わるため、シャッター音の長さが変わることがあります。
- シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

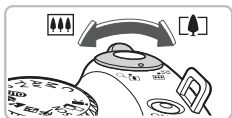
シャッターボタンを半押しせずに、一度に二段目まで深く押し込むと、ピントが合わない画像になることがあります。

撮る

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。人を撮影するときは、顔を自動的に検出して顔にピントを合わせ、顔の明るさや色あいも最適になるよう設定されます。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動音が鳴り、起動画面が表示されます。
- もう一度押すと電源が切れます。

2 AUTOモードにする

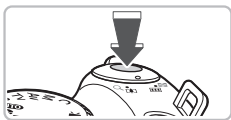
- モードダイヤルをAUTOにします。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 主被写体と判断した被写体にピントを合わせ、画面の右上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます。
- ▶ 人の顔が検出されたときは顔にピントを合わせ、主被写体と判断された顔に白のフレーム、その他の顔には灰色のフレームが表示されます。
- ▶ 検出した顔が動いていると判別したときは、白のフレームが表示されている顔を追尾し、灰色のフレームは表示されなくなります。

動画撮影範囲（p.27）

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを[♠]側へ押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠]側へ押すと小さくなります。
- ズームレバーを左右いっぱいまで押すと高速で、少し押すとゆっくりと、大きさが変わります。

ピントの合う範囲（目安）

ズームバー

AFフレーム

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ▶ ピントが合うと、電子音が「ピピッ」と2回鳴ります。
- ▶ ピントが合った位置にAFフレームが緑色で表示されます。
- ▶ 複数のフレームが表示されたときは、表示されたすべてのフレームにピントが合っています。
- ▶ 検出した顔が動いていると判別したときは、シャッターボタンを半押ししている間AFフレームが青色で表示され、ピントと露出を合わせ続けます（サーボAF）。

- [ストロボを上げてください]のメッセージが表示されたときは、ストロボ撮影をおすすめします。ストロボを指で持ち上げてください。撮影時に自動的にストロボが光ります。ストロボを使わないときは指で押し下げて収納します（発光禁止になります）。

5 撮影する

- シャッターボタンを全押しして、撮影します。
- ▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。
- ▶ ランプ（背面）が赤色に点滅し、撮影した画像がカードに記録されます。
- ▶ 撮影した画像は約2秒間表示されます。
- 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

こんなときは？

- **[ ] が点滅表示した**
  手ブレしやすいので、カメラが動かないように三脚などでカメラを固定してください。

- **電源を入れてもカメラの画面が表示されない**
  ビューファインダーに表示されています。DISP.ボタンを何回か押すと、画面が表示されます。
- **音が鳴らない**
  DISP.ボタンを押したまま電源を入れたため、警告音以外の音が鳴らなくなりました。音が鳴るように設定するには、MENUボタンを押して、［ff］タブの［消音］を選び、◀か▶を押して［しない］を選びます。
- **ストロボが光ったのに暗い画像になった**
  被写体までの距離が遠すぎます。ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときはレンズ先端から約50cm～6.8m、[T]側へ押してもっとも望遠側にしたときは約1.0m～3.7mの範囲で撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴る**
  撮りたいものが近すぎます。ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときで約10cm以上、[T]側に押してもっとも望遠側にしたときは約1m以上離れて撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（前面）が点灯する**
  暗いところでの撮影では、目が赤く写るのを緩和したり、ピントを合わせるため、ランプが点灯することがあります。
- **撮影しようとしたら、［ϟ］が点滅表示されて撮影できない**
  ストロボ充電中です。充電が終わると撮影できます。

シーンのアイコン

カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるように自動設定されます。

被写体＼背景	明るい		青空を含む		夕景	暗い	
		逆光		逆光			三脚使用時
人					—		*
動いているとき					—	—	—
人以外の被写体／風景	AUTO		AUTO			AUTO	*
近くの被写体					—		—
アイコンの背景色	灰色		水色		オレンジ色	紺色	

＊撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。特に背景がオレンジ色や青色の壁などのときは、[ ] や「青空を含む」アイコン類が表示されて、適切な色調で撮影できないことがあります。そのときは、**P**モード（p.68）で撮影することをおすすめします。

横長の灰色のフレームは？

動画で撮れる範囲です。モードダイヤルがどの位置にあっても、動画ボタンを押すだけで動画を撮影できます（p.31）。
フレームを非表示にするには、［情報表示設定］で［撮影情報］のチェックを外します（p.148）。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

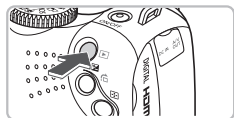
1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- ◀を押すと最後に撮影した画像から、新しい順に表示されます。
- ▶を押すと古い画像から順に表示されます。
- ◀か▶を押したままにすると、画像が早く進みます。ただし、表示画像は粗くなります。
- ◎を反時計方向に回すと新しい画像から、時計方向に回すと古い画像から順に表示されます。
- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると、撮影モードになります。
- 約1分経過すると、レンズが収納されます。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 消したい画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。

3 消す

- 🗑ボタンを押します。
- ▶ ［消去?］が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して［消去］を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、◀か▶を押すか◎を回して［キャンセル］を選び、FUNC.SETを押します。

印刷する

撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）をつないで、かんたんに印刷できます。

用意するもの

- カメラとPictBridge対応プリンター（別売）
- 付属のインターフェースケーブル（p.2）

1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

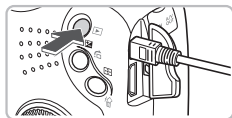
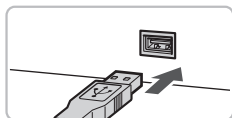
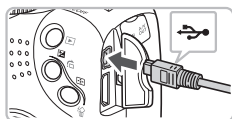
- ふたを開き、ケーブルの小さいプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きいプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

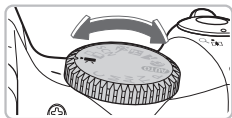
5 印刷する画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。

6 印刷する

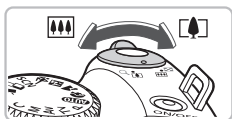
- ボタンを押します。
- ▶ 印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5〜6の操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

- 印刷方法については、「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。
- キヤノン製PictBridge対応プリンター（別売）については、p.39を参照してください。

動画を撮る

動画ボタンを押すだけで、カメラまかせの動画撮影ができます。音声はステレオで記録されます。
なお、長時間の撮影を繰り返し行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

1 モードダイヤルを🎥にする

- モードダイヤルが🎥以外の位置にあっても、動画ボタンを押すと動画を撮影できます（p.107）。

撮影できる時間

2 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを[♠]側へ押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠]側へ押すと小さくなります。

3 撮影する

- 動画ボタンを押します。
- ▶ 電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。
- 撮影がはじまったら、動画ボタンから指を放します。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。
- 撮影中でも、ズームレバーを操作して撮りたいものの大きさを変えることができます。

撮影時間

- 撮影中はマイクをふさがないでください。
- 動画ボタン以外を操作すると、操作音も録音されます。

4 撮影を終了する

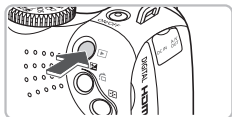
- 動画ボタンをもう一度押します。
- ▶ 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- ▶ 撮影した動画がカードに記録されます。
- ▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

撮影できる時間の目安

カード	2GB	8GB
撮影時間	10分33秒	42分11秒

- カメラが初期状態での撮影時間です。
- 最長撮影時間は約29分59秒です。ただし、撮影した動画の容量が4GBになると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、最長撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス4以上のカードを使用することをおすすめします。

動画を見る

撮影した動画を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。
- ▶ 動画には［SET 動画］が表示されます。

2 再生する動画を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して再生する動画を選び、FUNC./SETを押します。
- ▶ 操作パネルが表示されます。

3 再生する

- ◀か▶を押すか◎を回して［▶］を選び、FUNC./SETを押します。
- ▶ 動画が再生されます。
- もう一度FUNC./SETを押すと一時停止／再開できます。
- 音量は▲か▼を押して調節します。
- ▶ 再生が終わると［SET 動画］が表示されます。

> パソコンで動画を再生すると、パソコンの環境によっては「フレーム（コマ）落ちする」、「滑らかに表示されない」、「音声が途切れる」ことがあります。
> 付属のソフトウェアを使ってカードに書き戻すと、カメラで滑らかに再生できます。さらに、テレビに接続すれば、臨場感ある動画を楽しめます。

パソコンに取り込む

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンへ取り込むことができます。すでにZoomBrowser EX / ImageBrowserをお使いの場合も、付属のCD-ROMでソフトウェアを上書きインストールしてください。

パソコンに必要なシステム構成

Windows

OS	Windows Vista（Service Pack 1、Service Pack 2を含む） Windows XP Service Pack 2、Service Pack 3	
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること	
CPU	静止画	Pentium 1.3GHz以上
	動画	Core2 Duo 1.66GHz以上
RAM	静止画	Windows Vista：1GB以上 Windows XP：512MB以上
	動画	1GB以上
インターフェース	USB	
ハードディスク空き容量	ZoomBrowser EX：200MB以上* PhotoStitch：40MB以上	
ディスプレイ	1,024×768ドット以上	

* Windows XPでは、Microsoft .NET Framework 3.0（最大500MB）以上のインストールが必要です。お使いの環境によっては、インストールに時間がかかることがあります。

Macintosh

OS	Mac OS X v10.4～v10.5	
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること	
CPU	静止画	PowerPC G4 / G5またはIntelプロセッサー
	動画	Core Duo 1.66GHz以上
RAM	静止画	512MB以上
	動画	1GB以上
インターフェース	USB	
ハードディスク空き容量	ImageBrowser：300MB以上 PhotoStitch：50MB以上	
ディスプレイ	1,024×768ドット以上	

用意するもの

- カメラとパソコン
- 付属のCD-ROM（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）
- 付属のインターフェースケーブル（p.2）

準備をする

ここでは、Windows VistaとMac OS X v10.5を使って説明をしています。

1 ソフトウェアをインストールする

Windows

① CD-ROMをパソコンのドライブに入れる

② インストールをはじめる

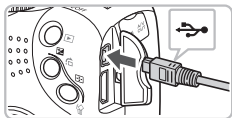
- ［おまかせインストール］をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。
- ユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、メッセージにしたがって進めます。

③ インストールが終了したら、［再起動］または［完了］をクリックする

④ CD-ROMを取り出す

- デスクトップ画面が表示されたらCD-ROMを取り出します。

Macintosh

- CD-ROM をパソコンのドライブに入れ、CD-ROM内の［ ］をダブルクリックします。
- ［インストール］をクリックして、表示される画面にしたがって操作を進めます。

2 カメラとパソコンをつなぐ

- カメラの電源を切ります。
- p.29 の手順 2 と同様の操作でカメラとパソコンを接続します。

3 電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

4 カメラウィンドウを表示する

Windows

- ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］をクリックします。
- ▶ CameraWindowが表示されます。
- 画面が表示されないときは、［スタート］メニュー ▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選びます。

Macintosh

- ▶ カメラとパソコンが通信できる状態になるとCameraWindowが表示されます。
- CameraWindowが表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。

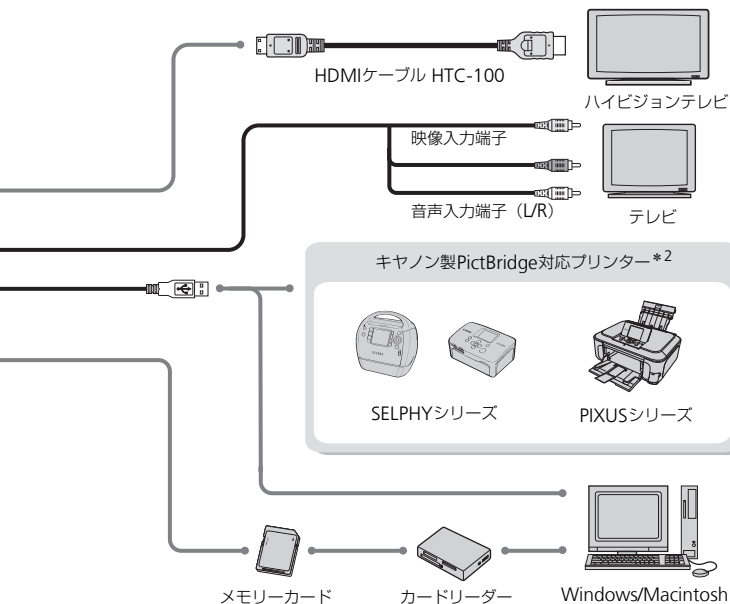
画像を取り込む

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックしたあと、［未転送画像を取り込む］をクリックします。
- ▶ パソコンに取り込まれていないすべての画像が取り込まれます。画像は、撮影日ごとのフォルダに分けられて、「ピクチャ」フォルダに保存されます。
- 取り込みが終わったら、［×］をクリックしてCameraWindowを閉じてからカメラの電源を切り、ケーブルを抜きます。
- 以後の操作は「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

ソフトウェアをインストールしなくても、カメラとパソコンを接続するだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。

- 接続してから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
- カメラの情報が、正しく表示できないことがあります。
- 動画は正しく取り込めません。
- 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
- 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
- OSのバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込めないことがあります。

アクセサリー 一覧

＊1 別売りも用意されています。
＊2 プリンターとカメラをつなぐケーブルについては、お使いになるプリンターの使用説明書を参照してください。
＊3 バッテリーチャージャー CBK4-200もお使いになれます。
＊4 スピードライト 430EX、580EXもお使いになれます。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになったときに最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

注意
指定外の電池／バッテリーを使うと、爆発などの危険があります。使用済みの電池／バッテリーは、各自治体のルールにしたがって処分してください。

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。

ストロボ

- **スピードライト 220EX、270EX、430EX II*、580EX II***
  キヤノンEOS用のスピードライトで、被写体に最適なストロボ光を与え、自然で鮮明な画像を撮影できます。
  *スピードライト 430EX、580EXもお使いになれます。
- **スピードライトトランスミッター ST-E2**
  スレーブ設定されたスピードライト（220EX、270EXを除く）をワイヤレスで制御できます。

電源

- **コンパクトパワーアダプター CA-PS700**
  家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このコンパクトパワーアダプターをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリー／電池は充電できません）。
- **バッテリー／チャージャーキット CBK4-300**
  充電式の単3形ニッケル水素電池（4本）と専用充電器のセットです。長時間カメラをお使いになるときにおすすめします。
  電池だけの「ニッケル水素電池 NB4-300」も用意されています。

海外での使用について

バッテリー/チャージャーキットやコンパクトパワーアダプターは、AC100～240V 50/60Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

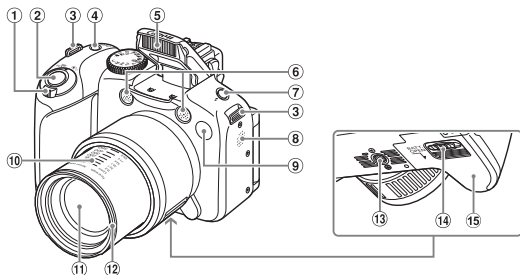
その他

- **ソフトケース PSC-2200シリーズ**
  カメラをキズやホコリから守ります。
- **HDMIケーブル HTC-100**
  カメラとハイビジョンテレビのHDMI™端子を接続するケーブルです。

2

もっとカメラを知ってみよう

この章ではカメラの各部のなまえや画面の表示内容のほか、各種の基本的な操作方法について説明しています。

各部のなまえ

① ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）（p.24）
再生時：Q（拡大）／[■]（インデックス）（p.116）
② シャッターボタン（p.23）
③ ストラップ取り付け部（p.13）
④ 電源ボタン／電源ランプ（p.47）
⑤ ストロボ（p.25、69）
⑥ マイク（p.32）
⑦ ϟ（ストロボ）ボタン（p.69）
⑧ スピーカー
⑨ ランプ（前面）（p.66、146）
⑩ 焦点距離の目安
⑪ レンズ
⑫ レンズフード取り付け部（p.55）
⑬ 三脚ねじ穴
⑭ ロック解除スイッチ（p.14）
⑮ 電池収納部ふた（p.14）

モードダイヤル

撮影モードの切り換えは、モードダイヤルで行います。

P、Tv、Av、M、Cモード
シャッタースピードや絞り数値を変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます（p.68、93、94、95、102）。

オートモード
カメラまかせの全自動撮影ができます（p.24）。

シーンモード
シャッターボタンを押すだけで、撮影シーンに最適なカメラまかせの全自動撮影ができます（p.58）。

動画モード
画面を最大に使って動画撮影できます（p.31）。なお、動画モード以外でも動画ボタンを押すだけで動画撮影できます（p.107）。

スティッチアシストモード
大きな被写体を分割して撮影できます（p.105）。

P Tv Av M C AUTO SCN

① 画面（液晶モニター）（p.18、44）
② 🖶（イージープリント）（p.29）／ ショートカットボタン（ショートカット）ボタン（p.149）
③ 視度調節ダイヤル（p.55）
④ ビューファインダー（p.46）
⑤ アクセサリーシュー（p.158）
⑥ 動画ボタン（ムービーボタン）（p.31、107）
⑦ モードダイヤル
⑧ ▶（再生）ボタン（p.27、115）
⑨ ±（露出）（p.69）／ジャンプ（ジャンプ）ボタン（p.117）
⑩ AFフレーム選択（AFフレーム選択）（p.83）／ 🗑（1画像消去）ボタン（p.28）
⑪ DC IN（電源入力）端子（p.157）
⑫ A / V OUT（映像／音声出力）
⑬ DIGITAL（デジタル）端子
⑭ HDMI端子
⑮ カードスロットふた（p.16）
⑯ MENU（メニュー）ボタン（p.49）
⑰ ランプ（背面）（p.47）
⑱ DISP.（ディスプレイ）ボタン（p.46）
⑲ 🌷（マクロ）（p.72）／◀ボタン
⑳ MF（マニュアルフォーカス）（p.88）／▲ボタン
㉑ ISO（p.73）／▶ボタン
㉒ FUNC./SET FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン（p.48）
㉓ セルフタイマー（セルフタイマー）（p.65、66）／▼ボタン
㉔ コントローラーホイール（p.43）

コントローラーホイール

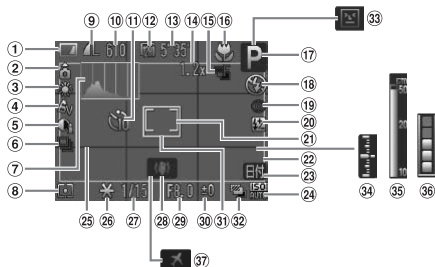
ホイールを回すと、項目の選択や画像の切り換えなどができます。

▶ボタン

レンズが出た状態では、撮影モードと再生モードを切り換えます。レンズが収納された状態では、再生モードでの電源の入／切を切り換えます。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）

ビューファインダーにも同じ情報が表示されます。

① 電池残量表示（p.15）
② カメラ位置＊
③ ホワイトバランス（p.74）
④ マイカラー（p.76）
⑤ i-コントラスト（p.96）
⑥ ドライブモード（p.75）
⑦ ヒストグラム（p.148）
⑧ 測光モード（p.87）
⑨ 静止画の圧縮率（画質）（p.70）、記録画素数（p.70）
⑩ 撮影可能枚数（p.17）
⑪ セルフタイマー（p.65、66、77、78）
⑫ 動画の記録画素数（p.108）
⑬ 撮影可能時間（p.32）
⑭ デジタルズーム倍率（p.62）、デジタルテレコンバーター（p.63）
⑮ フォーカスブラケット（p.89）
⑯ マクロ（p.72）、スーパーマクロ（p.72）、マニュアルフォーカス（p.88）
⑰ 撮影モード
⑱ ストロボモード（p.25、69、92）
⑲ 赤目自動補正（p.97）
⑳ ストロボ調光補正（p.98）、ストロボ発光量（p.99）
㉑ スポット測光枠（p.87）
㉒ 動画撮影領域（p.27）／静止画撮影領域（p.108）
㉓ 日付写し込み（p.64）
㉔ ISO感度（p.73）
㉕ グリッドライン（p.148）
㉖ AEロック（p.90、111）、FEロック（p.91）
㉗ シャッタースピード
㉘ 手ブレ補正（p.149）
㉙ 絞り数値
㉚ 露出補正（p.69）
㉛ AFフレーム（p.25）
㉜ AEB撮影（p.91）
㉝ 目つむり検出（p.101）
㉞ 露出レベル表示（p.95）
㉟ MFインジケーター（p.88）
㊱ バッファー警告
㊲ エリア設定（p.143）

＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

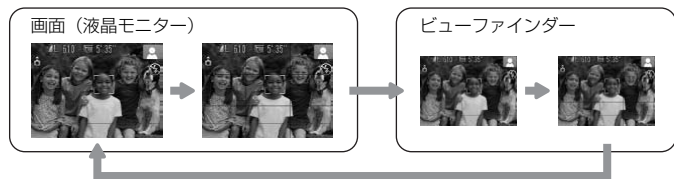
再生時（詳細情報表示）

① 印刷予約（p.137）
② マイカテゴリー（p.129）
③ 撮影モード
④ ISO感度（p.73）
⑤ 露出補正量（p.69）、露出シフト量（p.111）
⑥ ホワイトバランス（p.74）
⑦ ヒストグラム（p.47）
⑧ 画像編集（p.132～136）
⑨ 圧縮率（画質）（p.70）、MOV（動画）
⑩ 記録画素数（p.70）
⑪ 電池残量表示（p.15）
⑫ 測光モード（p.87）
⑬ フォルダ番号－画像番号（p.144）
⑭ 再生画像番号／総画像数
⑮ シャッタースピード
⑯ 絞り数値、画質（動画）（p.108）
⑰ i-コントラスト（p.96、135）
⑱ ストロボ発光（p.69）、調光補正（p.98）
⑲ マクロ（p.72）、スーパーマクロ（p.72）、マニュアルフォーカス（p.88）
⑳ ファイルサイズ（p.70）
㉑ 静止画：記録画素数（p.70）
動画：撮影時間（p.108）
㉒ 保護（p.124）
㉓ マイカラー（p.76、134）
㉔ 赤目補正（p.97、136）
㉕ 撮影日時（p.64）

表示の切り換え

DISP.ボタンを押して切り換えます。

撮影時

液晶モニターを閉じると、ビューファインダー表示に切り換わります。表示内容を変えることができます。

再生時

液晶モニターを閉じると、ビューファインダー表示に切り換ります。

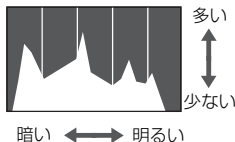
撮影直後の画面表示も、DISP.ボタンを押すと切り換えができます。ただし、簡易情報表示にはなりません。最初に表示される画面は、MENUボタンを押して［■］タブの［レビュー情報］で設定します。

撮影時の暗い場所での画面表示

暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。

再生時の高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」（p.45）にすると、画像上の白トビした個所が点滅表示されます。

ヒストグラム

- 「詳細情報表示」（p.45）のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示しています。また、グラフが右に寄っているときは明るい画像、左に寄っているときは暗い画像となり、露出の傾向を確認できます。
  ヒストグラムは撮影時に表示することもできます（p.148）。

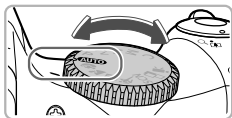
ランプの表示

電源ランプやカメラ背面のランプ（p.43）は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

ランプ	状態	カメラの状態
電源ランプ	オレンジ点灯	撮影モード（p.24）
	緑点灯	再生モード（p.27）、プリンター接続時（p.29）
	黄点灯	パソコン接続時（p.36）
ランプ（背面）	赤点滅	カードへの記録／読み出し、各種通信中（p.25）

ランプ（背面）が赤く点滅しているときは、カードへの記録／読み出しや各種通信をしています。「電源を切る」、「カードスロットふたや電池収納部ふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。

FUNC.メニューの基本操作

撮影時によく使う機能は、FUNC.メニューで設定できます。メニュー項目や項目は撮影モードによって変わります（p.166～169）。

1 撮影モードを選ぶ

- モードダイヤルを目的の撮影モードにあわせます。

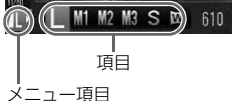
2 FUNC.メニューを表示する

- (FUNC/SET)を押します。

項目

メニュー項目

3 メニュー項目を選ぶ

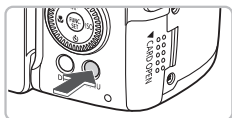
- ▲か▼を押してメニュー項目を選びます。
- ▶ 選んだメニュー項目の項目が、画面の下部に表示されます。

4 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選びます。
- DISP.が表示される項目では、DISP.ボタンを押して設定することができます。

5 設定して終了する

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶ 撮影画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

メニューの基本操作

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［📷］や再生［▶］などの系統別に分けられています。表示される項目は、モードによって変わります（p.168〜171）。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- ◀か▶を押すかズームレバー（p.42）を左右に動かしてタブを選びます。

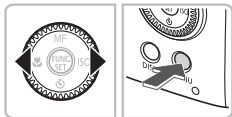
3 項目を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選びます。
- 項目を選んだあと、(FUNC/SET)または▶を押して画面を切り換え、設定する項目もあります。

4 内容を選ぶ

- ◀か▶を押して内容を選びます。

5 設定を終了する

- MENUボタンを押します。
- 通常の画面に戻ります。

音の設定を変える

各ボタンを押したときや撮影のときに鳴る音を、鳴らないようにしたり、音量を変えたりできます。

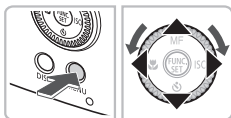
音を鳴らさない

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［消音］を選ぶ

● ◀か▶を押して［ƳŤ］タブを選びます。

● ▲か▼を押すか◎を回して［消音］を選び、◀か▶を押して［する］を選びます。

音量を変える

1 メニューを表示する

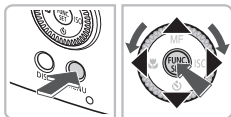
● MENUボタンを押します。

2 ［音量］を選ぶ

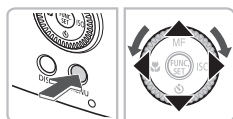
● ◀か▶を押して［ƳŤ］タブを選びます。

● ▲か▼を押すか◎を回して［音量］を選び、(FUNC SET)を押します。

3 音量を変える

● ▲か▼を押すか◎を回して項目を選び、◀か▶を押して音量を変えます。

画面の明るさを変える

画面の明るさを、2種類の方法で変えられます。
液晶モニターとビューファインダーの明るさは別々に設定できます（DISP.ボタンを押して設定したい方を表示してから設定します）。

メニューで変える

1 メニューを表示する

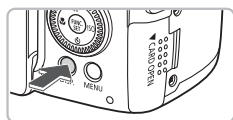
- MENUボタンを押します。

2 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- ◀か▶を押して［🔧］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［液晶の明るさ］を選びます。

3 明るさを変える

- ◀か▶を押して変えます。
- もう一度 MENU ボタンを押すと設定されます。

DISP.ボタンを押して変える

- DISP.ボタンを1秒以上押します。
- ▶ 画面が最高の明るさになります（［🔧］タブの設定は無視されます）。
- もう一度DISP.ボタンを1秒以上押すと、もとの明るさに戻ります。

- 次回電源を入れたときは、［🔧］タブで設定されている明るさになります。
- ［🔧］タブの設定で最高の明るさになっているときは、DISP.ボタンを押しても明るさは変わりません。

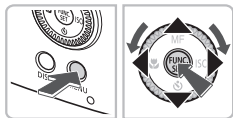
カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 [初期設定] を選ぶ

- ◀か▶を押して［ƴ†］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［初期設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期状態に戻す

- ◀か▶を押すか◎を回して [OK] を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ カメラが初期状態に戻ります。

? 初期状態に戻らない機能は？

- [ƴ†] タブの [日付/時刻] (p.19)、[言語] (p.21)、[ビデオ出力方式] (p.122)、［エリア設定］（p.143)、［起動画面］に登録した画像（p.152）
- マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p.74）
- ワンポイントカラー（p.103)、スイッチカラー（p.104）で指定した色
- スティッチアシストで指定した撮影方向（p.105）

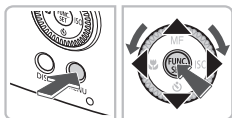
カードを物理フォーマット（初期化）する

カードへの画像記録／再生時の読み出し速度が遅くなったときなどに行います。物理フォーマットするとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから物理フォーマットしてください。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

● ◀か▶を押して［ƔƬ］タブを選びます。
● ▲か▼を押すか◎を回して［カードの初期化］を選び、(FUNC SET)を押します。

3 物理フォーマットする

● ▲か▼を押すか◎を回して［物理フォーマット］を選び、◀か▶を押して［✓］を表示します。
● ▲▼◀▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。
▶ 物理フォーマットがはじまります。

? 物理フォーマットについて

［カードが異常です］のメッセージが表示されたときや、カメラが正しく動かないときは、物理フォーマットすると使えるようになることがあります。その際、カード内の画像をパソコンなどにコピーしてから物理フォーマットしてください。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、通常の初期化（p.22）よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

節電機能（オートパワーオフ）

電池の消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.23）すると画面が表示され、撮影できます。

再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.142）。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.142）。

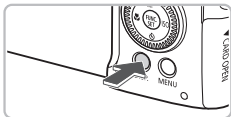
時計機能

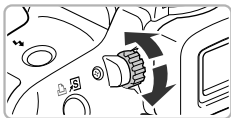
現在の時刻を確認できます。

- (FUNC./SET)を押したままにします。
- ▶ 左のような時計画面に、現在の時刻が表示されます。
- 時刻表示中にカメラを縦にすると縦表示になります。◀か▶を押すか(◎)を回すと表示色を変えることができます。
- もう一度(FUNC./SET)を押すと時刻表示が消えます。

(FUNC./SET)を押したまま電源を入れることで、時刻表示にすることもできます。

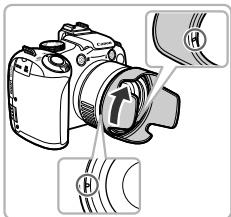
ビューファインダーを調節する

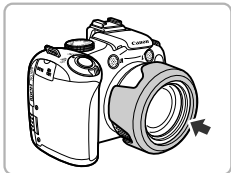
情報表示がはっきり見えるように調節します。

1 ビューファインダー表示にする

● DISP.ボタンを何回か押します（p.46）。

2 視度を調節する

● ビューファインダーを見ながら、視度調節ダイヤルを回します。

レンズフードを取り付ける

ストロボを使わずに広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外の光がレンズに入らないように、レンズフードLH-DC50を取り付けることをおすすめします。

レンズフードの切り欠き（■）とカメラの●をあわせてから、ロックするまで矢印の方向に回して取り付ける

● 取り外すときは、レンズフードを反対方向に回します。

● レンズフードを使用しないときは、図のようにカメラに収納できます。

> レンズフード装着時に、内蔵ストロボを使用すると、ストロボ光がケラレて、画像の一部が暗くなります。

3

いろいろなシーンや よく使う機能で撮ってみよう

この章では、シーン別での撮影方法やセルフタイマーなど、よく使う機能について説明しています。

- 撮影シーンにあったモードを選ぶと、撮影に必要な設定はカメラが自動的に行います。あとは、シャッターボタンを押すだけで撮影シーンに最適な画像が撮れます。
- 「被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）」（p.62）～「顔セルフタイマーを使う」（p.66）は、AUTO モードになっていることを前提に説明しています。シーンモードで使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.166～169）。

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 撮影モードを選ぶ

- モードダイヤルを撮りたいシーンに合わせます。

2 撮影する

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

風景を撮る（風景）

- 近景から遠景まで奥行きのあるシーンの撮影に最適です。

夜景と人を明るく撮る（ナイトスナップ）

- 夜景や、夜景の中の人をきれいに撮影できます。
- カメラをしっかりと構えれば、三脚がなくても手ブレを軽減して撮影できます。

動きのある被写体を撮る（スポーツ）

- ピント合わせを行いながら連続撮影できます。

［］［］では、撮影シーンによってはISO感度（p.73）が高くなるため、画像が粗くなることがあります。

特別なシーンで撮る

特別な撮影シーンにあったモードにするだけで、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 撮影モードを選ぶ

● モードダイヤルをSCNにあわせます。

● ◎を回して撮影モードを選びます。

2 撮影する

室内で撮る（パーティ／室内）

● 室内でのイベントやパーティなどの1コマを、自然な色あいで撮影できます。

夕焼けを撮る（夕焼け）

● 夕焼けを色鮮やかに撮影できます。

夜景を撮る（夜景）
- 夕暮れや夜景をバックにした人を撮影できます。
- 遅いシャッタースピードで撮影するため、人、背景ともにきれいに撮影できます。

花火を撮る（打上げ花火）
- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

砂浜で人を撮る（ビーチ）
- 太陽の光の反射が強い砂浜で、人を明るく撮影できます。

水槽の中の生き物を撮る（水族館）
- 水族館などの水槽の中にいる生き物を、自然な色あいで撮影できます。

木々や葉を色鮮やかに撮る（新緑／紅葉）
- 新緑や紅葉、桜など自然の木々や葉を、色鮮やかに撮影できます。

雪景色で人を撮る（スノー）

● 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

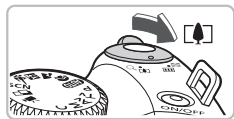
高感度で撮る（ISO3200）

● ISO感度が3200に設定されてシャッタースピードが速くなるため、暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。

● 記録画素数は［M3］（1600×1200画素）に固定されます（p.70）。

- ［ ］［ ］では、撮影シーンによってはISO感度（p.73）が高くなるため、画像が粗くなることがあります。
- ［ ］で人も一緒に撮るときは、ストロボ発光後もシャッター音がするまでは写される人が動かないようにしてください。
- ［ ］［ ］では手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.149）。
- ［ ］では画像が粗くなります。

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズーム（p.24）で被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大80倍相当まで拡大できます。ただし、設定した記録画素数（p.70）とデジタルズームの倍率によっては画像が粗くなることがあります。

1 ズームレバーを[♠]側へ押す

● ズームできるところまでレバーを押したままにします。

▶ 画像が粗くならない最大の倍率になると、ズームが止まり、レバーを放すとズーム倍率が表示されます。

2 もう一度[♠]側へ押す

▶ デジタルズームで被写体がさらに拡大されます。

デジタルズームで画像が粗くなる領域

記録画素数	光学ズーム（28〜560mm）*	デジタルズーム（560〜2240mm）*
L W	20x →	
M1	25x	→
M2		31x →
M3		50x →
S		80x →

□ ■：画像が粗くならない領域／ズーム倍率は白で表示

■：画像が粗くなる領域／ズーム倍率は青色で表示

→：画像が粗くならない最大倍率（セーフティズーム）

＊焦点距離（35mmフィルム換算）

デジタルズームを切る

デジタルズームを使わないようにするには、MENUボタンを押して、[📷] タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます。

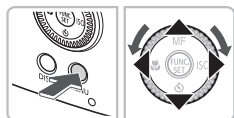
デジタルテレコンバーター

レンズの焦点距離を1.5倍／2.0倍相当にできます。ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。
ただし、設定した記録画素数（p.70）とテレコンバーターの組みあわせによっては、画像が粗くなることがあります。

1 ［デジタルズーム］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［◘］タブの［デジタルズーム］を選びます。

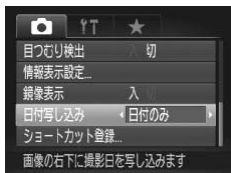
2 設定する

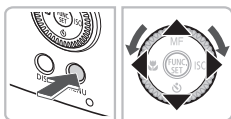
- ◀か▶を押して［テレコン1.5x］か［テレコン2.0x］を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶ 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。
- 戻すときは、［デジタルズーム］で［入］を選びます。

画像が粗くなる記録画素数との組みあわせ

- ［テレコン1.5x］、記録画素数が［ L ］［M1］［W］のときは、倍率が青色で表示され、画像が粗くなります。
- ［テレコン2.0x］、記録画素数が［ L ］［M1］［M2］［W］のときは、倍率が青色で表示され、画像が粗くなります。

- 1.5倍／2.0倍時の焦点距離はそれぞれ42～840mm／56～1120mm相当です（35mmフィルム換算）。
- デジタルズームとは一緒に使えません。

日時を入れる

画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.19）。

1 ［日付写し込み］を選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀か▶を押して［📷］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［日付写し込み］を選びます。

2 設定する

- ◀か▶を押して［日付のみ］か［日付+時刻］を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶［日付］が表示されます。

3 撮影する

- ▶撮影した画像の右下に、日時が記録されます。
- 戻すときは、手順1の操作で［切］を選びます。

日時を入れずに撮った画像に日時を入れて印刷するには

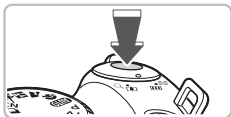
- **印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.138）**
- **付属のソフトウェアを使って印刷する**
  「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。
- **カメラとプリンターをつないで印刷する**
  「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

セルフタイマーを使う

集合写真など撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

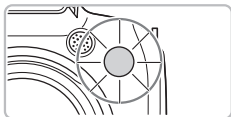
1 ▼を押す

2 [10] を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して [10] を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定されると［10］が表示されます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

- ▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。

- ▶ 撮影の2秒前にランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- セルフタイマー開始後に撮影を中止するときは、▼を押します。
- 戻すときは、手順 2 の操作で［OFF］を選びます。

タイマーの時間と撮影する枚数を変えられます（p.78）。

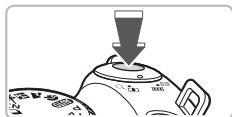
顔セルフタイマーを使う

集合写真などで、構図を決めてシャッターボタンを押したあと、シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.82）されると、約2秒後に3枚連続で撮影されます。

1 [ ] を選ぶ

- p.65の手順2の操作で［ ］を選びます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントの合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- ▶ 撮影準備に入り、［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入りカメラに顔を向ける

- ▶ 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。
- ▶ 引き続き、2枚目、3枚目が撮影されます。
- 戻すときは、p.65の手順2の操作で［ ］を選びます。

? 顔が検出できないときは？

一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約30秒後に撮影されます。

撮影枚数を変える

手順1の画面でMENUボタンを押したあと、◀か▶を押すか ◎ を回して枚数を変え、(FUNC/SET)を押すと設定されます。

4

目的の設定にして撮ってみよう

この章では、**P**モードのいろいろな機能を使って、一歩進んだ撮影方法について説明しています。

- モードダイヤルが**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- **P**は、Program AE（プログラムエーイー）の略です。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.166〜169）。

プログラムAEで撮る

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを**P**にする

2 目的に応じて各機能を設定する（p.69〜78）

3 撮影する

シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されたときは？

シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。以下の設定で、適正露出が得られることがあります。

- ストロボを発光させる（p.69）
- ISO感度を高くする（p.73）

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

1 露出補正を選ぶ

- ボタンを押します。

2 明るさを補正する

- 画面の表示を見ながら、を回して明るさを補正し、ボタンを押します。

ストロボを発光させる

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲は、ズームレバーを側に押してもっとも広角側にしたときで約50cm～6.8m、[]側に押してもっとも望遠側にしたときで約1.0m～3.7mです。

1 ストロボを持ち上げる

2 [⚡] を選ぶ

- ⚡ボタンを押したあと、◀か▶を押すかを回して［⚡］を選び、を押します。
- ▶ 設定されると［⚡］が表示されます。

記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を6種類から選べます。

1 記録画素数を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ L］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか ◎ を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

圧縮率（画質）を変える

画質を2種類から選べます。高画質から順に［ ］（ファイン）、［ ］（ノーマル）となります。

1 記録画素数を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ L］を選びます。

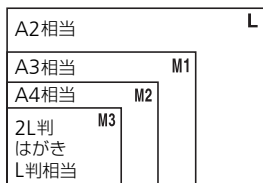
2 画質を変える

- DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか ◎ を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

記録画素数と圧縮率を選ぶときの目安

記録画素数（ピクセル）	圧縮率	1画像の容量（約・KB）	撮影できる枚数	
			2GB	8GB
L（ラージ）12M/4000×3000		3084	626	2505
		1474	1280	5116
M1（ミドル1）8M/3264×2448		2060	930	3721
		980	1920	7675
M2（ミドル2）5M/2592×1944		1395	1365	5457
		695	2672	10679
M3（ミドル3）2M/1600×1200		558	3235	12927
		278	6146	24562
S（スモール）0.3M/640×480		150	10245	40937
		84	15368	61406
W（ワイド）3840×2160		2132	903	3611
		1019	1862	7442

- 表内の数値は当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

用紙サイズの大きさで選ぶときの目安

- ［S］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。
- ［W］はワイドサイズ用紙用です。

近くの被写体を撮る（マクロ／スーパーマクロ）

近くの被写体を撮影したり、被写体に近づいて撮影したりできます。スーパーマクロ撮影では、マクロ撮影よりさらに被写体に近づいて撮影できます。光学ズーム（p.24）やデジタルズーム（p.62）は使えません。

1 ◀を押す

2 ［ ］または［ ］を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して［ ］または［ ］を選び、FUNC SETを押します。
- ▶ 設定されたモードのアイコンが表示されます。
- ▶ ［ ］では、ズーム位置がもっとも広角側に固定されます。

撮影できる範囲

マクロモード	撮影できる範囲（もっとも広角側）
マクロ	10～50cm
スーパーマクロ	0～10cm

でズームレバーを操作したときのバー表示について

- ズームレバーを操作すると画面にズームバーが表示されます。マクロ撮影では、黄色のバー表示の範囲はピントが合いません。
- 黄色のバー表示の範囲では［ ］が灰色表示になり、通常の［ ］で撮影されます。

うまく撮影するために

- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［ ］で撮影することをおすすめします（p.77）。
- AF フレームの大きさを小さくすると、狙った被写体の特定の部分にピントを合わせやすくなります（p.83）。

- マクロ撮影時にストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。
- スーパーマクロ撮影時にレンズを傷つけないようにしてください。

ISO感度を変える

ISO感度を選ぶ

- ▶を押したあと、◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
ISO 80 ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600	高い	夜景、暗い室内

ISO感度を変えるときの目安

- ISO感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くすると、シャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

- ［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると、自動設定されたISO感度が画面に表示されます。
- より高感度なISO3200に設定することもできます（p.61）。

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、自然な色あいにする機能です。

1 ホワイトバランスを選ぶ

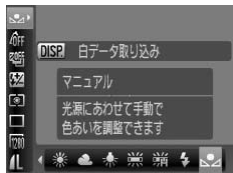
- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［AWB］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇り空や日陰、薄暮
	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	ストロボ	ストロボ使用時
	マニュアル	手動設定

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- 上記の手順2の操作で［ ］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、DISP.ボタンを押します。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

連続して撮る

一定の間隔で連続撮影できます。

1 ドライブモードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［□］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して［連続撮影］［AF連続撮影］のどちらかを選び、(FUNC/SET)を押します。

3 撮影する

▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

ドライブモード	撮影間隔	説明
連続撮影	約1.0枚/秒	連続撮影中は、シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出に固定されます。
AF連続撮影	約0.7枚/秒	連続撮影中もピント合わせが行われます。［AFフレーム］は［中央］に固定されます。
LV連続撮影	約0.7枚/秒	連続撮影中のピント位置は、1枚目の撮影で固定されます。

- セルフタイマー（p.65、66、77、78）とは一緒に使えません。
- 撮影枚数が多くなると、撮影間隔が長くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、撮影間隔が長くなります。
- ［▒］モード時、マニュアルフォーカス撮影時（p.88）は、［AF連続撮影］が［LV連続撮影］になります。

画像の色調を変える（マイカラー）

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えたりできます。

1 マイカラーを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか ◎ を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

マイカラー切	—
くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした印象の色調になります。
すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした印象の色調になります。
セピア	セピア調になります。
白黒	白黒になります。
ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」、「あざやかグリーン」、「あざやかレッド」の効果をあわせたもので、ポジフィルムのように自然で色鮮やかになります。
色白肌	人の肌が色白になります。
褐色肌	人の肌が褐色になります。
あざやかブルー	青色を強調します。空や海などがより鮮やかになります。
あざやかグリーン	緑色を強調します。山や草花などがより鮮やかになります。
あざやかレッド	赤色を強調します。赤い被写体がより鮮やかになります。
カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます（p.77）。

- ［ ］［ ］では、ホワイトバランス（p.74）は設定できません。
- ［ ］［ ］では、人の肌の色以外が変わることがあります。また、肌の色によっては、思いどおりの色にならないことがあります。

カスタムカラー

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（先鋭度）、色の濃さ、赤、緑、青、肌色を、それぞれ5段階から選んで設定できます。

- p.76の手順2の操作で［ ］を選び、DISP.ボタンを押します。
- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押すか◎を回して値を設定します。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃く／褐色（肌色）になり、左に行くほど弱く／薄く／色白（肌色）になります。
- DISP.ボタンを押すと設定されます。

2秒のセルフタイマーで撮る

セルフタイマーの時間を、約2秒にすることができます。

［ ］を選ぶ

- ▼を押したあと、▲か▼を押すか◎を回して［ ］を選び、FUNC./SETを押します。
- ▶ 設定されると［ ］が表示されます。
- p.65の手順3の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0～30秒）と、撮影枚数（1～10枚）を設定できます。

1 ［Ⓒ］を選ぶ

- ▼を押したあと、▲か▼を押すか◎を回して［Ⓒ］を選び、すぐにMENUボタンを押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して［時間］または［枚数］を選びます。
- ◀か▶を押すか◎を回して数値を選び、(FUNC. SET)を押します。
- p.65の手順3の操作で撮影します。

❓ 撮影枚数を2枚以上にしたときは？

- 露出やホワイトバランスは、1枚目の撮影で固定されます。
- タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

- ストロボが発光するときは、撮影間隔が長くなります。
- 撮影枚数を多くすると、撮影間隔が長くなることがあります。
- カードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影を終了します。

テレビを使って撮る

カメラの画面表示をテレビに表示して撮影できます。

- 「テレビで見る」（p.122）の手順でカメラとテレビをつなぎます。
- 撮影操作は、カメラの画面を使ったときと同じです。

- HDMIケーブル HTC-100（別売）でハイビジョンテレビにつないだときは、テレビに表示できません。
- 記録画素数が［W］でテレビに表示しているときは、デジタルズームできません（p.62）。

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。

1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AF フレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。

2 構図を変える

- シャッターボタンを半押ししたまま、構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

5

もっとカメラを使いこなそう

この章では4章の応用編として、さらに多くの機能を使った撮影方法について説明しています。

- モードダイヤルが**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- 「シャッタースピードを決めて撮る」（p.93）、「絞り数値を決めて撮る」（p.94）、「シャッタースピードと絞り数値を決めて撮る」（p.95）は、モードダイヤルをそれぞれのモードにしたときの説明をしています。
- 「ストロボ発光量を設定する」（p.99）は、モードダイヤルが**M**モードになっていることを前提に説明しています。
- 「色を変えて撮る」（p.103）は、モードダイヤルを**SCN**にして、それぞれのモードを選んだときの説明をしています。
- 「スティッチアシストで撮る」（p.105）は、モードダイヤルが□モードになっていることを前提に説明しています。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.166～169）。

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。

［AFフレーム］を選ぶ

● MENUボタンを押して、［📷］タブの［AFフレーム］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

顔優先

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、ホワイトバランス（［AWB］時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。そのままシャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

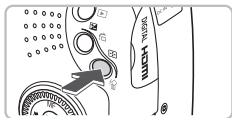
- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、［中央］で固定されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AF フレームは表示されません。

アクティブ／中央

AFフレームが1点になります。確実なピント合わせに有効です。
［アクティブ］では、AFフレームの位置や大きさを変えることができます。

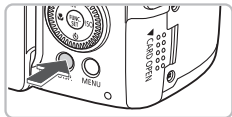
［アクティブ］［中央］でシャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色のAFフレームと［❗］が表示されます。

AFフレームの位置や大きさを変える

AFフレームモードが［アクティブ］（p.82）のときは、AFフレームの位置や大きさを変えることができます。

1 ボタンを押す

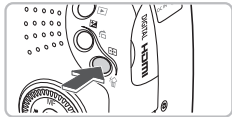
▶ AFフレームがオレンジ色になります。

2 AFフレームを動かす

- を回します。
- 微調整するには、▲▼◀▶を押します。
- 顔が検出されたときは、MENUボタンを押すたびに、AFフレームが顔の位置に移動します。
- ボタンを押し続けると、AFフレームがもとの位置（中央）に戻ります。

3 AFフレームの大きさを変える

- DISP.ボタンを押します。

▶ AFフレームが小さくなります。

- もう一度DISP.ボタンを押すと標準の大きさに戻ります。

4 設定を完了する

- ボタンを押します。

- スポット測光枠の位置をAFフレームに連動させることができます（p.87）。
- デジタルズーム（p.62）やデジタルテレコンバーター（p.63）使用時は、AFフレームは［標準］の大きさになります。

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときにAFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 ［ピント位置拡大］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［ピント位置拡大］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 ピントを確認する

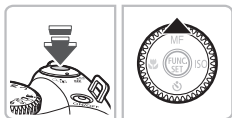
- シャッターボタンを半押しします。
- ▶［顔優先］では、主被写体として検出された顔が拡大表示されます。
- ▶［アクティブ］または［中央］では、AFフレームが拡大表示されます。

❓ 拡大表示されない？

［顔優先］で顔が検出できない（p.82）ときや、顔が画面に対して大きいとき、［アクティブ］または［中央］でピントが合わないときは拡大表示されません。

デジタルズーム（p.62）、デジタルテレコンバーター（p.63）、サーボAF（p.85）、テレビに表示しているとき（p.79）は拡大表示されません。

AFロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を放しても、ピント位置は固定されたままになります。

1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶［MF］と MF インジケーターが表示され、被写体までの距離を確認できます。

2 構図を決めて撮影する

サーボAFで撮る

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

1 ［サーボAF］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［サーボAF］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色でAFフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を放して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AFロック撮影はできません。
- メニューの［📷］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- セルフタイマー（p.65、66、77、78）使用時は設定できません。

ピントを合わせたい人を選んで撮る（顔セレクト）

特定の人の顔を選んでピントを合わせ、撮影できます。

枠

1 AFフレームを［顔優先］にする （p.82）

2 顔セレクトモードにする

- 人にカメラを向け、ボタンを押します。
- ▶［顔セレクト：入］が表示されたあと、主被写体として検出された顔にオレンジ色の枠［ ］が表示されます。
- ［ ］は、人が動いても一定の範囲で追尾します。
- 顔が検出されないと［ ］は表示されません。

3 ピントを合わせたい顔を選ぶ

- ◀か▶を押すかを回すと、検出された別の顔に［ ］が移動します。
- またはボタンを押すと、選択した顔の枠が白になります。

4 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている顔の顔枠が緑色の［ ］に変わります。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。

カメラが検出している顔の数を確認するには

DISP.ボタンを押すと、カメラが検出した顔の数（最大35個）を表示します（オレンジ色：主被写体の顔、白：検出した顔）。

手順3で▲か▼を押して［ ］を選ぶか、手順4でボタンを押し続けると、顔セレクトモードが解除されます。

測光モードを変える

撮影シーンにあわせて、測光モード（明るさを測る特性）を変えられます。

1 測光モードを選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［評価測光］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか ◎ を回して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

評価測光アイコン	評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
中央部重点平均測光アイコン	中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
スポット測光アイコン	スポット測光	［［　］］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。スポット測光枠はAFフレームに連動させることもできます。

スポット測光枠をAFフレームに連動させる

1 ［スポット測光］を選ぶ

2 AFフレームを［アクティブ］にする（p.82）

3 ［スポット測光枠］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［撮影］タブの［スポット測光枠］を選び、◀か▶を押して［AF枠連動］を選びます。
- ▶ 移動した AF フレームに、スポット測光枠が連動します。

マニュアルフォーカスで撮る

オートフォーカスでピントが合わないときは、マニュアルフォーカスを使います。手動でおおよそのピントを合わせてからシャッターボタンを半押しすると、手動で合わせたフォーカス位置の近傍で、もっともピントの合う位置に微調整されます。

1 [MF] を選ぶ

- ▲を押します。
- ▶ [MF] とMFインジケーターが表示されます。

2 おおよそのピントを合わせる

- 距離表示とピント位置を示すバーを目安にして、拡大表示を見ながら◎を回して、ピントを合わせます。
- ▶ AFフレームを中心に画像が拡大表示されます。

3 ピントを微調整する

- シャッターボタンを半押しするか⊡ボタンを押すと、もっともピントが合う位置に微調整されます（セーフティ MF）。

- マニュアルフォーカス中は、AFフレームモードやAFフレームの大きさは変えられません（p.82）。AFフレームモードやAFフレームの大きさを変えるときは、一度マニュアルフォーカスを解除してください。
- 正確なピント合わせを行うには、三脚などでカメラを固定することをおすすめします。
- デジタルズーム（p.62）、デジタルテレコンバーター（p.63）、テレビに表示しているとき（p.79）は拡大表示されませんが、ピント合わせはできます。
- [📷] タブの [MF拡大表示] で [切] を選ぶと、拡大表示されなくなります。
- [📷] タブの [セーフティ MF] で [切] を選ぶと、シャッターボタンを押してもピントが微調整されなくなります。

フォーカスを自動的に変えて撮る（フォーカスブラケット撮影）

マニュアルフォーカスで設定したピント位置、後ろ寄りのピント位置、前寄りのピント位置の順に、自動的に3画像を撮影できます。3画像は、連続撮影（p.75）と同じ間隔で撮影されます。ピント位置の変更量は3段階で設定できます。

1 ［ ］を選ぶ

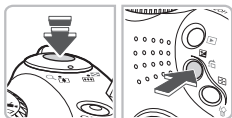
- (FUNC SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、◀か▶を押すか◎を回して［ ］を選びます。

2 ピント位置の変更量を設定する

- DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか◎を回します。
- ▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと間隔がせまくなり、中心（設定したピント位置）に近い位置でピントを合わせます。

- ストロボ発光時は、通常の1画像撮影になります。
- 連続撮影（p.75）はできません。

AEロックで撮る

露出を固定して撮影できます。ピントと露出を個別に設定できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

1 露出を固定する

● 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、ボタンを押します。

▶ ［✱］が表示され、露出が固定されます。

● シャッターボタンから指を放したあとに他のボタンを押すと、［✱］が消え解除されます。

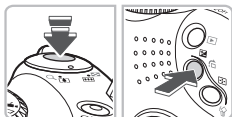
2 構図を決めて撮影する

プログラムシフト

露出を固定したあとに◎を回すと、シャッタースピードと絞り数値の組みあわせを変えることができます。

FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影（p.90）と同様に固定できます。FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

1 ストロボを持ち上げ、[⚡] を選ぶ（p.69）

2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、ボタンを押します。
- ▶ストロボが発光し、[✱] が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を放したあとに他のボタンを押すと、[✱] が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

露出を自動的に変えて撮る（AEB撮影）

カメラが自動的に露出を変えながら、連続撮影（p.75）と同じ間隔で、標準露出、マイナス補正、プラス補正の順に3画像撮影します。

1 [] を選ぶ

- を押したあと、▲か▼を押して [] を選び、◀か▶を押すかを回して [] を選びます。

2 露出の補正量を設定する

- DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して設定します。
- 補正量は、標準露出を中心に－2～＋2段の範囲で1/3段ずつ設定できます。なお、露出補正（p.69）をしている場合は、その設定値が中心になります。

- ストロボ発光時は、通常の1画像撮影になります。
- 連続撮影（p.75）はできません。

スローシンクロで撮る

人などの被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減できます。

1 ストロボを持ち上げる（p.69）

2 ［⚡👤］を選ぶ

- ⚡ボタンを押したあと、◀か▶を押すか◎を回して［⚡👤］を選び、(FUNC SET)を押します。
- 設定されると［⚡👤］が表示されます。

3 撮影する

- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.149）。

シャッタースピードを決めて撮る

シャッタースピードを目的の値に設定して撮影できます。設定したシャッタースピードに応じて、カメラが自動的に絞り数値を設定します。
Tvは、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

1 モードダイヤルを**Tv**にする

2 設定する

- ◎を回してシャッタースピードを設定します。

3 撮影する

シャッタースピードの設定範囲

15"、13"、10"、8"、6"、5"、4"、3"2、2"5、2"、1"6、1"3、1"、0"8、0"6、0"5、0"4、0"3、1/4、1/5、1/6、1/8、1/10、1/13、1/15、1/20、1/25、1/30、1/40、1/50、1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1000、1/1250、1/1600、1/2000、1/2500、1/3200

- 2"は2秒、0"3は0.3秒、1/160は1/160秒を表しています。
- ストロボ発光時のシャッタースピードの上限は1/500秒です。1/500秒以上に設定しても、自動的に1/500秒で撮影されます。
- ズーム位置によっては、選べないシャッタースピードがあります。

? 絞り数値がオレンジ色で表示されるときは？

シャッターボタンを半押ししたときに絞り数値がオレンジ色で表示されるときは、適正露出から外れています。絞り数値が白字で表示されるまで、シャッタースピードを変えます（セーフティシフトも使えます（p.94））。

- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ軽減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- シャッタースピードを遅くしたときに三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.149）。

絞り数値を決めて撮る

絞り数値を目的の値に設定して撮影できます。設定した絞り数値に応じて、カメラが自動的にシャッタースピードを設定します。
Avは、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

1 モードダイヤルを Av にする

2 設定する

- ◎を回して絞り数値を設定します。

3 撮影する

絞り数値の設定範囲

F2.8、F3.2、F3.5、F4.0、F4.5、F5.0、F5.6、F5.7、F6.3、F7.1、F8.0

- ストロボ発光時のシャッタースピードの上限は1/500秒です。そのため、絞り数値に応じて自動設定されるシャッタースピードは1/500秒以上になりません。
- ズーム位置によっては、選べない絞り数値があります。

シャッタースピードがオレンジ色で表示されるときは？

シャッターボタンを半押ししたときにシャッタースピードがオレンジ色で表示されるときは、適正露出から外れています。シャッタースピードが白字で表示されるまで、絞り数値を変えます（セーフティシフトも使えます（下記））。

セーフティシフト

Tv、**Av**のとき、[📷]タブの［セーフティシフト］を［入］にすると、適正露出が得られないときでも、自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されて、適正露出で撮影できます。ただし、ストロボ発光時は機能しません。

シャッタースピードと絞り数値を決めて撮る

シャッタースピードと絞り数値を個別に設定して、目的の露出で撮影できます。
Mは、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを**M**にする

2 設定する

- ボタンを押して、シャッタースピードまたは絞り数値を選びます。
- ◎を回して設定します。
- ▶ 設定した値に連動して、露出レベルマークが移動し、適正露出からの差が確認できます。
- ▶ 適正露出から±2段を越えると、露出レベルマークはオレンジ色で表示され、シャッターボタンを半押しすると右下に［+2］または、［−2］とオレンジ色で表示されます。

- 適正露出は設定している測光モード（p.87）で算出されます。
- 設定後にズーム操作をしたり構図を変えると、露出レベルマークが移動することがあります。
- シャッタースピードと絞り数値の設定により、画面の明るさが変わります。ただし、ストロボを上げて［⚡］にすると画面の明るさは変わりません。
- シャッターボタンを半押ししながらボタンを押すと、自動的にシャッタースピートまたは絞り数値の選んでいない方が自動的に変更されて適正露出になります（設定によっては適正露出にならないことがあります）。

明るさを補正して撮る（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。

［i-コントラスト］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［ ］タブの［i-コントラスト］を選び、◀か▶を押して［自動］を選びます。
- ▶ 画面に［ ］が表示されます。

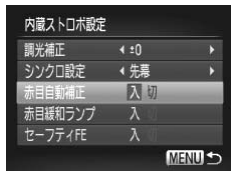
撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。

撮影した画像を補正することもできます（p.135）。

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。

1 ［ストロボ制御］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［ストロボ制御］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して［赤目自動補正］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。
- ▶ 画面に［◉］が表示されます。

化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.136）。
- ⚡ボタンを長押しすることで、手順2の画面を表示することができます。
- ストロボを上げているときは、⚡ボタンを押してからすぐにMENUボタンを押すことで、手順2の画面を表示することができます。

ストロボの調光量を補正する

ストロボ撮影時の露出を露出補正（p.69）と同様に、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

1 ［⚡±］を選ぶ

- FUNC.SET を押したあと、▲か▼を押して［⚡±］を選びます。

2 設定する

- ◀か▶を押すか◎を回して補正量を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 画面に［⚡±］が表示されます。

ストロボ調光補正は、［📷］タブの［ストロボ制御］（p.97）から［調光補正］を選び、◀か▶を押して設定することもできます（p.49）。

セーフティ FE

ストロボ発光時に、露出オーバーで適正露出が得られない場合、自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されて白トビを軽減し、適正露出で撮影できます。なお、［📷］タブの［ストロボ制御］で［セーフティ FE］を［切］に設定すると、自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されなくなります。

ストロボ発光量を設定する

Mモードでは、ストロボの発光量を3段階から選べます。

1 Mモードにする

2 ストロボ発光量を選ぶ

- (FUNC.SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選びます。

3 設定する

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC.SET)を押します。

- ストロボ発光量は、［ ］タブの［ストロボ制御］（p.97）から［発光量］を選び、◀か▶を押して設定することもできます（p.49）。
- **Tv**モードや**Av**モードでは、［ ］タブの［ストロボ制御］で［発光モード］を［マニュアル］に設定するとストロボ発光量が設定できます。

ストロボ発光のタイミングを変える

ストロボ発光とシャッターのタイミングを変えることができます。

1 ［ストロボ制御］を選ぶ（p.97）

2 設定する

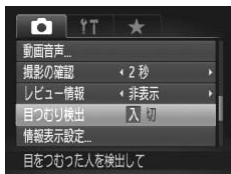
- ▲か▼を押すか◎を回して［シンクロ設定］を選び、◀か▶を押して［先幕］または［後幕］を選びます。

先幕、後幕とは？

［先幕］では、シャッターが開いた直後にストロボが発光します。

［後幕］では、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。

目をつむった人を確認する

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、［ ］を表示してお知らせします。

1 ［目つむり検出］を選ぶ

● MENUボタンを押して、［ ］タブの［目つむり検出］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 撮影する

▶ 目をつむった人を検出したときは、枠と［ ］が表示されます。

- ［ ］［ ］［ ］［ ］では、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- ［ ］［ ］［ ］では設定できません。

撮影の設定を登録する

よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を登録しておくことができます。モードダイヤルを **C** にあわせるだけで、事前に登録した設定内容で撮影できます。撮影モードを切り換えたり、電源を切ったりすると解除されてしまう設定（連続撮影、セルフタイマーなど）も記憶します。

登録できる設定

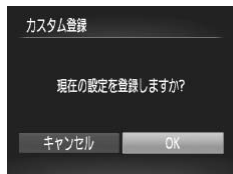
- 撮影モード（**P**、**Tv**、**Av**、**M**）
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**で設定できる項目（p.69～95）
- 撮影メニューの設定内容
- ズーム位置
- マニュアルフォーカス位置（p.88）
- マイメニューの設定内容（p.150）

1 登録したい撮影モードにして、内容を設定する

2 ［カスタム登録］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［撮影］タブの［カスタム登録］を選び、FUNC.SETを押します。

3 登録する

- ◀か▶を押すかダイヤルを回して［OK］を選び、FUNC.SETを押します。

- すでに登録した、設定の一部（撮影モード以外）を変更するときは、**C** を選んで設定を変更し、もう一度登録します。この設定内容は、ほかの撮影モードには反映されません。
- 登録内容を初期設定状態に戻すときは、モードダイヤルを **C** にして［初期設定］（p.52）を行います。

色を変えて撮る

画像の色を変えて撮影できます。ただし、撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

ワンポイントカラー

画面内の指定した1色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。

1 ［］を選ぶ

● p.59の手順1の操作で［］を選びます。

2 DISP.ボタンを押す

● 変更前の画像とワンポイントカラーの画像が交互に表示されます。

● 初期状態では、残る色が緑色に設定されています。

取り込まれた色

3 残す色を指定する

● 残したい色が中央の枠いっぱいに入るようにして、◀を押します。

▶ 指定した色が取り込まれます。

4 残す色の範囲を指定する

● ▲か▼を押すか◎を回して、残したい色の範囲を変えます。

● 指定した色だけを残すときは−の値を大きくします。指定した色に近い色も残すときは+の値を大きくします。

● DISP.ボタンを押すと設定され、撮影画面に戻ります。

ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。

⁄S スイッチカラー

画面内の指定した1色を別の色に変えて撮影できます。別の色の取り込みは1色のみです。

1 ［⁄S］を選ぶ

● p.59の手順1の操作で［⁄S］を選びます。

2 DISP.ボタンを押す

● 変更前の画像とスイッチカラーの画像が交互に表示されます。
● 初期状態では、緑色を灰色に変えるよう設定されています。

3 変える前の色を指定する

● 中央の枠いっぱいに入るように指定して◀を押します。
▶ 指定した色が取り込まれます。

4 変える後の色を指定する

● 中央の枠いっぱいに入るように指定して▶を押します。
▶ 指定した色が取り込まれます。

5 変える後の色の範囲を指定する

- ▲か▼を押すか◎を回して、変えたい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを変えるときは－の値を大きくします。指定した色に近い色も変えるときは+の値を大きくします。
- DISP.ボタンを押すと設定され、撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなることがあります。

スティッチアシストで撮る

大きな被写体を分割して撮影し、パソコンで付属のソフトウェアを使い合成処理をすると、パノラマ画像が作れます。

1 モードダイヤルを□にする

2 撮影する方向を選ぶ

- ◎を回して選びます。

→ 左から右へ水平に撮影
← 右から左へ水平に撮影
↑ 下から上へ垂直に撮影
↓ 上から下へ垂直に撮影
左上から時計回りに4画像撮影

3 1枚目の画像を撮影する

▶ 1枚目の撮影で、露出やホワイトバランスが固定されます。

4 2枚目以降を撮影する

- 1枚目の画像に重ねるようにして、2枚目の画像を撮影します。
- 重ねかたが多少ズレても、合成時に自動補正されます。
- 2枚目の撮影と同様の操作で最大26枚まで撮影できます（時計回りで撮影したときを除く）。

5 撮影を終了する

- (FUNC./SET)を押します。

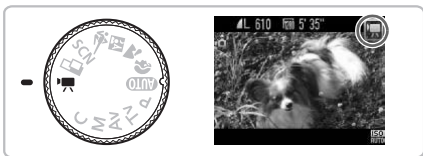
6 パソコンで合成する

- 画像の合成方法については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

- テレビに表示しながらの撮影はできません（p.79）。
- AFロックするときは、S ボタンに［AFL］を登録してください（p.149）。

6

動画のいろいろな機能を使ってみよう

この章では、1章の「動画を撮る」「動画を見る」の応用編として、さらにいろいろな機能を使って動画を撮る、見る方法について説明しています。

- モードダイヤルがになっていることを前提に説明していますが、モードダイヤルが以外でも、動画ボタンを押すと動画を撮ることができます。

以外のモードで動画を撮る

- あらかじめ設定したFUNC.メニューや撮影メニューの一部が、動画撮影時の設定にあわせて変更されることがあります。
- AEロック／露出シフト（p.111）、AFロック（p.85）、マニュアルフォーカス（p.88）は、撮影前に操作できません。撮影中に操作してください。
- 動画撮影を停止すると、動画撮影前の設定に戻ります。また、AEロック／露出シフト（p.111）の設定は解除されます。
- ワンポイントカラー（p.103）、スイッチカラー（p.104）で撮影する場合、動画ボタンを押す前に、残す色、変える色などを選んでおいてください。

画質を変える

3種類の画質から選べます。

1 画質を選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［1280］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

画質の一覧

画質（記録画素数／フレーム数）	内容
1280 1280×720画素／30フレーム/秒	ハイビジョン動画です。
640 640×480画素／30フレーム/秒	標準的な動画です。
320 320×240画素／30フレーム/秒	［640］より記録画素数が小さくなるため、画質は粗くなりますが、撮影時間を約3倍にできます。

撮影時間の目安

画質	撮影時間	
	2GB	8GB
1280	10分33秒	42分11秒
640	22分45秒	1時間30分57秒
320	1時間4分1秒	4時間15分51秒

- 当社測定条件によるものです。
- 最長撮影時間は1280のときは約29分59秒、640、320のときは約1時間です。ただし、撮影した動画の容量が4GBになると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、最長撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス4以上のカードを使用することをおすすめします。

［640］［320］では、静止画の記録画素数が［W］のとき、静止画を撮影できる範囲が灰色のフレームで表示されます。

動画撮影中に静止画を撮る

動画の撮影中でも静止画を撮ることができます（フォト・イン・ムービー）。

1 動画撮影中に、ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ▶ピントと露出が再調整されます（電子音は鳴りません）。
- 動画撮影は継続されます。

2 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ▶静止画が撮影されます。

- [1280]の動画撮影中に撮れる静止画の記録画素数（p.70）は[W]です。
- 静止画の記録画素数（p.70）を［W］に設定して、[640][320]の動画撮影中に静止画を撮ると、記録画素数は［L］になります。
- 静止画を撮影したとき、動画には黒い画面とシャッター音が記録されます。
- ストロボは発光しません。
- 画像の右下に撮影日時を記録することはできません。
- ISO感度は［ISO AUTO］固定です。
- i-コントラスト（p.96）はできません。
- 静止画を撮ると内部メモリーの空きがなくなり、動画撮影が止まることがあります。

?［カメラ］の表示が変わって、静止画が撮れない？

カードの記録速度が遅いときや、内部メモリーの空きがないときは、静止画を撮れないことがあります。

- ［カメラ］（点滅）：書き込み処理中です。点滅が終わると撮影できます。
- ［カメラ×］：内部メモリーの空きがないため静止画を撮れません。

音声を設定する

録音レベルとウィンドカットを設定できます。

録音音量を変える

動画の録音音量を手動で設定できます。

- MENUボタンを押して、[📷] タブの [動画音声] を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して [マイク] を選び、◀か▶を押して [マニュアル] を選びます。

オート	音割れを軽減するために、録音音量を自動的に調整します。
マニュアル	▼を押したあと、◀か▶で録音レベル（録音音量）を設定します。

ウィンドカットを使う

風が強いときに発生する雑音を低減できます。ただし、風がない場所で録音したときは、不自然な音になることがあります。

- [動画音声] を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して [ウィンドカット] を選び、◀か▶を押して [入] を選びます。

AEロック／露出シフト

撮影前や撮影中に露出を固定したり、露出を1/3段ずつ、±2段の範囲で変えられます。

1 露出を固定する

- ±ボタンを押すと、露出が固定されて露出シフトバーが表示されます。
- もう一度±ボタンを押すと解除されます。

2 露出を変える

- 画面を見ながら、◎を回して明るさを変えます。

その他の撮影機能の操作方法

AFロックで撮るときは、あらかじめ S ボタンにAFLを登録し、呼び出します（p.149）。
以下の機能を静止画と同じ操作方法で使えます。

- **被写体を拡大する**
  光学ズーム、デジタルズーム（p.62）ができます。
- **セルフタイマーを使う（p.65）**
- **近くの被写体を撮る（スーパーマクロ）（p.72）**
  ［▲］で［❀］の範囲まで撮影できます。
- **色あいを調整する（ホワイトバランス）（p.74）**
- **画像の色調を変える（マイカラー）（p.76）**
- **2秒のセルフタイマーで撮る（p.77）**
- **テレビを使って撮る（p.79）**
- **マニュアルフォーカスで撮る（p.88）**
- **AEロックで撮る（p.90）**
- **AF補助光（ランプ）を切る（p.146）**
- **情報の表示内容を設定する（p.148）**
- **手ブレ補正の設定を変える（p.149）**
  ［入］、［切］の切り換えができます。
- **S ボタンによく使う機能を登録する（p.149）**

再生機能の操作方法

以下の機能は、静止画と同じ操作方法で使えます。

- **消す（p.28）**
- **画像を素早く探す（p.116）**
- **条件で絞り込んで画像を表示する（p.117）**
- **スライドショーで見る（p.119）**
- **画像を切り換えたときの効果を変える（p.121）**
- **テレビで見る（p.122）**
- **保護する（p.124）**
- **まとめて消す（p.127）**
- **画像を分類する（マイカテゴリー）（p.129）**
- **回転する（p.131）**

「動画を見る」（p.33）で表示される操作パネル一覧

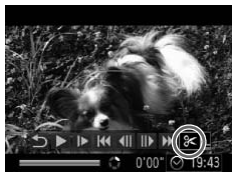
アイコン	内容
⮌	終了
▶	再生
ǀ▶	スロー再生（◀か▶で再生速度を変更。音声は再生されません）
ǀ◀◀	先頭フレームを表示
◀ǀǀ	フレーム戻し（FUNC SETを押し続けると早戻し）
ǀǀ▶	フレーム送り（FUNC SETを押し続けると早送り）
▶▶ǀ	最終フレームを表示
✂	編集（p.113）
🖶	PictBridge対応プリンターとつないだとき（p.29）に表示。 「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

編集する

撮影した動画の前後を1秒単位で削除できます。

動画編集パネル

動画編集バー

1 [✂] を選ぶ

- p.33の手順1～3の操作で [✂] を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 動画編集パネルと動画編集バーが表示されます。

2 編集範囲を指定する

- ▲か▼を押して [✂前] または [✂後] を選びます。
- ◀か▶を押すか(◎)を回して [▮] を動かすと、[✂]が1秒ごとに表示されます。[✂前] を選ぶと [✂] 位置より前部、[✂後] を選ぶと後部が削除されます。
- ▶ [▮] を [✂] 以外の位置に指定しても、[✂前] では1つ左側の [✂] 位置よりも前部、[✂後] では1つ右側の [✂] 位置よりも後部が削除されます。
- ▶ [▮] で指定した範囲が、動画として残る範囲になります。

3 編集した動画を確認する

- ▲か▼を押して [▶] を選び、(FUNC. SET)を押すと、編集した動画が再生されます。
- もう一度編集するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、▲か▼を押して [↩] を選び(FUNC. SET)を押したあと、◀か▶を押すか(◎)を回して [OK] を選び、(FUNC. SET)を押します。

4 編集した動画を保存する

- ▲か▼を押して［ ］を選び、を押します。
- ◀か▶を押すかを回して［新規保存］を選び、を押します。
- ▶ 別動画として保存されます。

- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、編集内容が上書きされるため、編集前の動画は残りません。
- カードの空き容量が足りないときは、［上書き保存］しか選べません。
- 動画の保存中に電池がなくなると、保存できないことがあります。編集するときは、フル充電された単3形ニッケル水素電池かコンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）（p.40）を使ってください。

7

いろいろな再生とその他の機能を使ってみよう

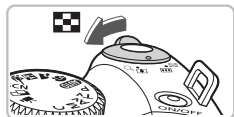
章の前半では、いろいろな画像の再生方法や編集方法について説明しています。章の後半では、印刷する画像の指定方法を説明しています。

- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

- パソコンで編集したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。
- 編集機能（p.132～136）は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を素早く探す

インデックス表示で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。

1 ズームレバーを側へ押す

▶ インデックス表示になります。

- ズームレバーを側へ押すごとに、表示される画像の数が増えます。
- ズームレバーをQ側へ押すごとに、表示される画像の数が減ります。

2 表示画像を切り換える

- ◎を回すと、手順1で指定した画像の数単位で切り換わります。

3 画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して画像を選びます。
- 選ばれている画像にはオレンジ色の枠が表示されます。
- FUNC.SETを押すと、選ばれている画像が1枚表示になります。

コントローラーホイールを使って探す

コントローラーホイールを回すと、画像を一列に表示しながら素早く画像を探せます。また、日付ごとにジャンプすることもできます(スクロール再生)。

画像を選ぶ

- 1枚表示にして、◎を速く回すと左の画面が表示されます。
- ▲か▼を押すと、日付ごとにジャンプして画像を探せます。
- FUNC.SETを押すと1枚表示に戻ります。

この効果を使わないようにするには、MENUボタンを押して［▶］タブの［スクロール再生］を選び、［切］を選びます。

条件で絞り込んで画像を表示する

カード内に多くの画像があるときは、条件を指定して表示する画像を絞り込むことができます。この状態で、画像を保護したり（p.124）まとめて消したり（p.127）することができます。

日付ジャンプ	指定した撮影日の画像を表示
マイカテゴリージャンプ	指定したカテゴリー（p.129）の画像を表示
静止画ジャンプ	静止画のみ表示
動画ジャンプ	動画のみ表示
10枚ジャンプ	画像を10枚ずつとばして表示
100枚ジャンプ	画像を100枚ずつとばして表示

［ ］［ ］［ ］［ ］で探す

絞り込む対象

1 絞り込む対象を選ぶ

- 1枚表示の状態でボタンを押したあと、▲か▼を押してジャンプ方法を選びます。
- ［ ］または［ ］では、◀か▶を押して、絞り込む対象を選びます。◎を回すと、選択中の画像と同じ日付（カテゴリー）の画像だけが表示されます。
- DISP.ボタンを押すと、情報の非表示／表示を切り換えられます。
- MENU ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。

2 絞り込み再生で見る

- (FUNC SET) を押すと絞り込み再生になり、ジャンプ方法と黄色の枠が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回すと、選んだ対象の画像のみが表示されます。
- ボタンを押すと［現在の絞り込み再生は解除されました］と表示されます。(FUNC SET)を押すと絞り込み再生が解除されます。

［ ］［ ］でとばす

- 1枚表示の状態で ボタンを押したあと、▲か▼を押してジャンプ方法を選びます。
- ◀か▶を押すと、選んだ単位で画像をとばして表示されます。
- MENU ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。

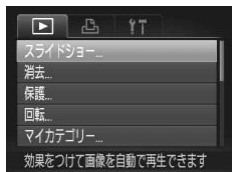
対象が選べない？

p.117の手順1で［ ］を選んだとき、同じ日付の画像しかないと1つの対象しか選べません。また、［ ］では、カテゴリーで分類された画像がないと［ ］しか選べません。

絞込み再生について

絞り込み再生の状態（手順2）で、「 インデックス表示で画像を探す」（p.116）、「スライドショーで見る」（p.119）、「拡大して見る」（p.121）などで、絞り込んだ画像を見ることができます。また、「保護する」（p.124）、「まとめて消す」（p.127）、「印刷指定（DPOF）」（p.138）で［すべての絞り込み対象画像］を指定すると、絞り込んだ画像をまとめて操作することができます。
ただし、カテゴリーを変えたり（p.129）、画像を編集して新規保存（p.132）などを行うとメッセージが表示され、絞り込み再生が解除されます。

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［スライドショー］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選び、◀か▶を押して設定します。

リピート	繰り返し再生するかどうか
再生間隔	画像1枚あたりの表示時間
効果	画像を切り換えたときの見えかた

3 ［スタート］を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して［スタート］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと、一時停止／再開ができます。

- 再生中に◀か▶を押すか◎を回すと画像を切り換えられ、◀か▶を押したままにすると早送りできます。
- スライドショー中は節電機能が働きません（p.54）。
- ［効果］で［バブル］を指定したときは、［再生間隔］を変えられません。

ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影時にピント合わせをしたAFフレームの位置や、顔を検出して撮影された顔の部分を、拡大表示することができます。

1 DISP.ボタンを押して、ピント位置確認表示にする（p.46）

▶ 撮影時にピント合わせを行ったAFフレームや、顔の位置に白のフレームが表示されます。

▶ 再生時に検出された顔の位置には、灰色のフレームが表示されます。

▶ オレンジ色の枠の個所が拡大表示されます。

2 拡大表示する個所を変える

● ズームレバーを🔍側へ一度押します。

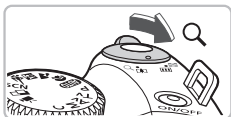
▶ 左の画面が表示されます。

● 複数のフレームが表示されているときは、(FUNC. SET)を押すと別のフレームに移動します。

3 拡大率や表示位置を変える

● ズームレバーを操作して表示倍率を変えたり、▲▼◀▶で表示位置を変えながら確認します。

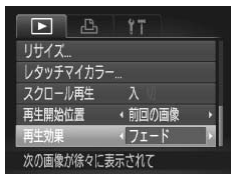
● MENUボタンを押すと、手順1に戻ります。

拡大して見る

表示位置の目安

ズームレバーを🔍側へ押す

- 拡大表示になり、押し続けると最大約 10 倍まで拡大できます。
- ▲▼◀▶ を押すと、表示位置が移動します。
- ズームレバーを▦側へ押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。
- ◎を回すと拡大したまま画像を切り換えられます。

画像を切り換えたときの効果を変える

1枚表示で画像を切り換えたときの見えかた（効果）を、3種類から選べます。

［再生効果］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［再生効果］を選び、◀か▶を押して項目を選びます。

テレビで見る

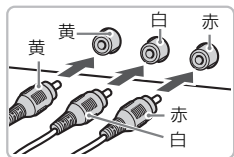
付属のステレオビデオケーブルでカメラとテレビをつなぎ、撮影した画像を見ることができます。

用意するもの

- カメラとテレビ
- 付属のステレオビデオケーブル（p.2）

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの入力端子へしっかりと差し込みます。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをケーブルでつないだ入力にする

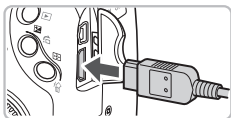
4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

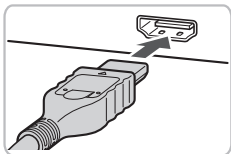
? 画像がテレビに正しく表示されないときは？

出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。**MENU**ボタンを押して、［ƳƬ］タブの［ビデオ出力方式］の出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

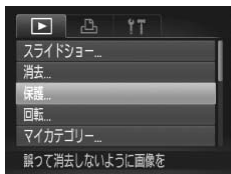
ハイビジョンテレビで見る

別売のHDMIケーブル HTC-100を使うと、ハイビジョンテレビに接続して、臨場感のある画像を楽しめます。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラのHDMI端子に差し込みます。
- ケーブルのプラグを、図のようにテレビのHDMI端子に差し込みます。
- p.122の手順3～4の操作で画像を表示します。

ハイビジョンテレビに接続しているとき、操作音は鳴りません。

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.28、127）で誤って消さないよう、保護することができます。

1 ［保護］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［保護］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して指定方法を選び、(FUNC/SET)を押します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

カードを初期化（p.22、53）すると、保護された画像も消えます。

保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を指定する

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 指定されると［⊶］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと解除され、［⊶］が消えます。

● 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。

範囲で指定する

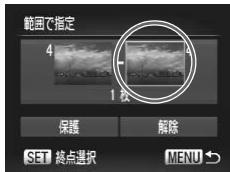
1 ［範囲で指定］を選ぶ

● p.124の手順2で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 始点の画像を指定する

● (FUNC/SET)を押します。
● ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 終点の画像を指定する

● ▶を押して［終点選択］にし、(FUNC/SET)を押します。
● ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
● 始点より前の画像は選べません。

4 保護する

- ▼を押して[保護]を選び、(FUNC SET)を押します。

で選ぶ

手順2、3の上側の画面では、(◎)を回して、始点、終点の画像を選ぶこともできます。

すべての画像を指定する

1 ［全画像］を選ぶ

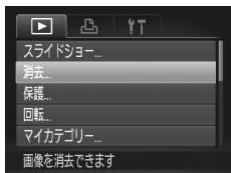
- p.124の手順2の操作で［全画像］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 保護する

- ▲か▼を押すか(◎)を回して［保護］を選び、(FUNC SET)を押します。

「範囲で指定する」の手順4、「すべての画像を指定する」の手順2で［解除］を選ぶと、選んだ画像の保護をまとめて解除することができます。

まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。保護した画像（p.124）は消えません。

1 ［消去］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［消去］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して指定方法を選び、(FUNC/SET)を押します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選び指定する

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- p.124の手順2の操作で画像を選びます。
- ▶ 指定されると［✓］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと解除され、［✓］が消えます。
- 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。

2 MENUボタンを押す

3 消す

- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

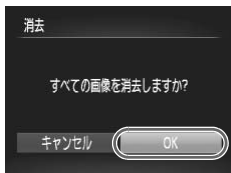
範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

- p.127の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- p.125の手順2〜3の操作で指定します。

2 消す

- ▼を押して［消去］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての画像を指定する

1 ［全画像］を選ぶ

- p.127の手順2の操作で［全画像］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 消す

- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

画像を分類する（マイカテゴリー）

画像を種類別に分類することができます。また、種類別に絞り込んで表示した状態（p.117）で次の機能を使うと、分類した画像をまとめて操作することができます。

- スライドショーで見る（p.119）、保護する（p.124）、まとめて消す（p.127）、印刷指定（DPOF）（p.138）

撮影時には、シーンに応じて自動で分類されます。
：［ ］［ ］で撮影した画像、または顔が検出された画像
：AUTO時に［ ］［ ］と判断された場合、または［ ］［ ］［ ］で撮影した画像
：［ ］［ ］［ ］［ ］［ ］［ ］で撮影した画像

1 ［マイカテゴリー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［マイカテゴリー］を選び、FUNC.SETを押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して指定方法を選び、FUNC.SETを押します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

［画像指定］を選び指定する

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、FUNC.SETを押します。
- p.124の手順2の操作で画像を選びます。
- ▲か▼を押して種類を指定し、FUNC.SETを押します。
- ▶ 指定されると［✓］が表示されます。
- もう一度FUNC.SETを押すと解除され、［✓］が消えます。

- 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。

範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選び指定する

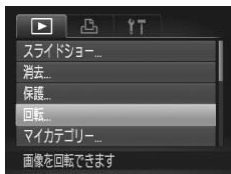
- p.129の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- p.125の手順2〜3の操作で指定します。
- ▼を押して種類の項目を選び、◀か▶を押すか◎を回してカテゴリーを指定します。

2 設定する

- ▼を押して［設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

手順2で［解除］を選ぶと、［範囲で指定］した画像のカテゴリーを、まとめて解除することができます。

回転する

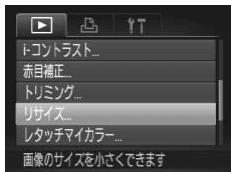
画像の向きを変えて保存することができます。画質が 1280 の動画は回転できません。

1 ［回転］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［回転］を選び、(FUNC.SET)を押します。

2 回転する

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。
- (FUNC.SET)を押すたびに90度単位で回転します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［リサイズ］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 大きさを選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して大きさを選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［新規保存しますか?］が表示されます。

4 新規保存する

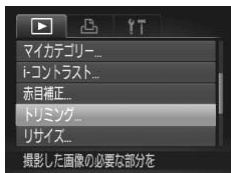
- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶別画像として保存されます。

5 画像を確認する

- MENUボタンを押すと、［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して［はい］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶保存した画像が表示されます。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。
- ［W］［XS］の画像はリサイズできません。

画像を切り抜く（トリミング）

撮影した画像の必要な部分を切り抜き、別画像として保存できます。

1 ［トリミング］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［トリミング］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

切り抜き範囲

切り抜き範囲の表示

3 切り抜く範囲を調整する

- ▶ 画像を切り抜く範囲が枠で表示されます。
- ▶ 左上にもと画像、右下に切り抜き後の画像が表示されます。
- ズームレバーを左右に押すと枠の大きさが変えられます。
- ▲▼◀▶を押すと枠の位置が移動できます。
- DISP.ボタンを押すと、枠の縦横が変えられます。
- 顔が検出された画像では、左上の画面の顔の位置に灰色の枠が表示されます。◎を回すと別の枠に切り換わり枠を中心にトリミングできます。
- (FUNC/SET)を押したあと、◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

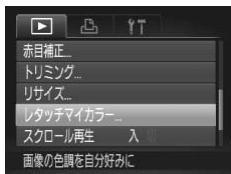
切り抜き後の記録画素数

4 新規保存して画像を確認する

- p.132の手順4～5の操作を行います。

- ［W］［S］［XS］の画像はトリミングできません。
- トリミングできる画像の縦横比率は4:3（縦のときは3:4）固定となります。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。

画像の色調を変える（レタッチマイカラー）

画像の色調を変え、別画像として保存できます。各項目の内容はp.76を参照してください。

1 ［レタッチマイカラー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［レタッチマイカラー］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか(◎)を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか(◎)を回して項目を選びます。
- 項目を選んだあと、「拡大して見る」（p.121）の操作で画像を拡大／縮小できます。
- 拡大表示中に(FUNC/SET)を押すと色調を変える前の画像と切り換えることができ、MENUボタンを押すともとの画面に戻ります。
- (FUNC/SET)を押します。

4 新規保存して画像を確認する

- p.132の手順4〜5の操作を行います。

- 繰り返し画像の色調を変えると、画質が徐々に低下したり、思いどおりの色にならないことがあります。
- 撮影時のマイカラー（p.76）と色調が若干異なることがあります。

明るさを補正する（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は、［自動］［弱］［中］［強］の4種類から選べます。補正した画像は別画像として保存します。

1 ［i-コントラスト］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［i-コントラスト］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。

4 新規保存して画像を確認する

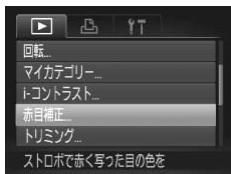
- p.132の手順4～5の操作を行います。

？［自動］では思いどおりに補正されない？

［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［赤目補正］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［赤目補正］画面が表示されます。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。

3 補正する

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」（p.121）の操作で画像を拡大／縮小できます。

4 新規保存して画像を確認する

- ▲▼◀▶を押すか◎を回して［新規保存］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶別画像として保存されます。
- p.132の手順5の操作を行います。

- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

かんたん予約と印刷（DPOF）

撮影直後や画像の再生中に🖶ボタンを押すだけで、印刷予約（DPOF）ができます。印刷予約をして、カメラとプリンターをつなぐと簡単に印刷できます。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

かんたん予約

1 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して、画像を選びます。

2 🖶ボタンを押す（動画は除く）

3 印刷予約をする

- ▲か▼を押して印刷枚数を指定し、◀か▶を押すか◎を回して［予約する］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- 印刷予約を解除するときは、印刷予約した画像を表示し、🖶ボタンを押し、◀か▶を押すか◎を回して［解除する］を選び、(FUNC/SET)を押します。

予約した画像の印刷

キヤノン製SELPHYシリーズのプリンターを例にして説明します。「はじめよう！おうちプリント」（p.2）もあわせて参照してください。

印刷される枚数

1 カメラとプリンターをつなぐ（p.29）

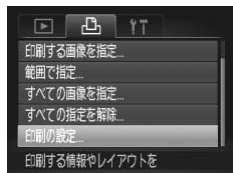
2 印刷する

- ▲か▼を押して［すぐに印刷］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 印刷がはじまります。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

印刷指定（DPOF）

カード内の画像の中から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷や写真店への印刷注文ができます（最大998画像）。この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

印刷内容の設定

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

1 ［印刷の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［凸］タブの［印刷の設定］を選び、(FUNC SET)を押します。

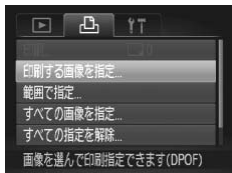
2 設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選び、◀か▶を押して設定します。
- ▶ MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

印刷タイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷
	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—

- プリンターまたは写真店によっては、印刷指定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで指定したカードをこのカメラに入れると、［!］が表示されることがあります。このカメラで指定を変更すると、設定済みの指定がすべて書き換えられることがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] の両方を [入] にはできません。
- 日付の並びは、[ϒϒ] タブの [日付/時刻] の設定で印刷されます (p.19)。

1枚ずつ枚数を指定する

1 [印刷する画像を指定] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[凸] タブの [印刷する画像を指定] を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- [インデックス] では、指定されると [✓] が表示され、もう一度(FUNC/SET)を押すと、解除されて [✓] が消えます。

3 枚数を設定する

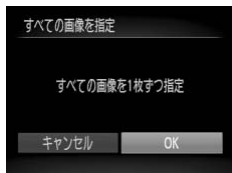
- ▲か▼を押すか◎を回して枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2～3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- [インデックス] では、枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選び指定する

- p.139の手順1の画面で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- p.125の手順2〜3の操作で指定します。

2 印刷指定する

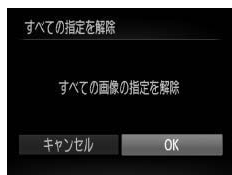
- ▲か▼を押して［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.139の手順1の画面で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.139の手順1の画面で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定を解除する

- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

8

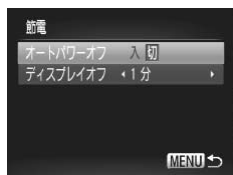
カメラの機能を自分好みに変えよう

カメラの各種機能を撮影スタイルにあわせて変えられます。
章の前半では、ふだん使う上で便利な機能について説明しています。
章の後半では、撮影機能や再生機能を目的にあわせて変える方法について説明しています。

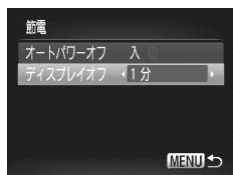
カメラの機能を変える

メニューの［𝐘𝐓］タブで、ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定できます（p.49）。

節電機能を切る

節電機能（p.54）を［切］にできます。電池の消耗を防ぐため、通常は［入］をおすすめします。

- ［節電］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して［オートパワーオフ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。
- ［切］にすると節電機能は働きません。電源の切り忘れに注意してください。

画面が消えるまでの時間を変える

節電機能（p.54）が働いて、画面が自動的に消えるまでの時間を設定できます。なお、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

- ［節電］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して［ディスプレイオフ］を選び、◀か▶を押して時間を選びます。
- 電池の消耗を防ぐため、通常は［1分］以下をおすすめします。

世界時計を使う

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先（旅行先）のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付／時刻を設定しなおす必要がなく便利です。

1 自宅のエリアを設定する

- ［エリア設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- はじめて設定するときは、左の画面が表示されていることを確認し、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して自宅エリアを選び、(FUNC/SET)を押します。▲か▼を押して［☀］を選ぶと、サマータイム（1時間プラスされます）を設定できます。

2 訪問先のエリアを設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して［✈］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して訪問先エリアを選び、(FUNC/SET)を押します。
- 手順1と同じように、サマータイムも設定できます。

3 訪問先のエリアに切り換える

- ▲か▼を押すか◎を回して［自宅/訪問先］を選びます。
- ◀か▶を押して［✈］を選び、MENUボタンを押します。
- ▶［エリア設定］や撮影画面（p.44）に［✈］が表示されます。

［✈］の状態で日付／時刻を変える（p.19）と、［🏠］の日時も自動的に変わります。

機能の説明を表示しない

FUNC.メニュー（p.48）やメニュー（p.49）を選ぶと、機能の説明が表示されます。この説明を表示しないようにすることができます。

● ［機能ガイド］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

画像番号のつけかたを変える

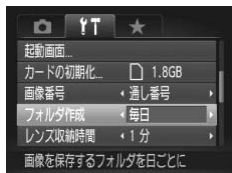
撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えられます。

● ［画像番号］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを交換して撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを交換すると、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、交換するカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.53）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは、月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。

- ［フォルダ作成］を選び、◀か▶を押して［毎日］を選びます。
- 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

距離表示の単位を変える

ズームバー（p.24）や、MFインジケーター（p.88）の距離表示の単位をm/cmからft/in（フィート／インチ）に変えることができます。

- ［距離表示］を選び、◀か▶を押して［ft/in］を選びます。

レンズ収納時間を変える

撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.27）。この収納時間を［0秒］に設定できます。

- ［レンズ収納時間］を選び、◀か▶を押して［0秒］を選びます。

撮影機能を変える

モードダイヤルを**P**モードにし、メニューの［◘］タブで設定できます（p.49）。

ここで説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.166～169）。

フォーカス設定を切り換える

通常は、シャッターボタンを押さなくてもカメラを向けた方向の被写体へ常にピントを合わせますが、シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせるようにできます。

- ［コンティニュアスAF］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

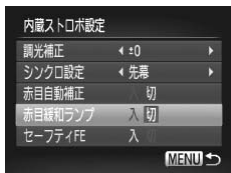
入	シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
切	通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

AF補助光（ランプ）を切る

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるために、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにできます。

- ［AF補助光］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ(前面)が点灯します。このランプを点灯しないようにできます。

- ［ストロボ制御］を選び、FUNC/SETを押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して［赤目緩和ランプ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

撮影後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。

- ［撮影の確認］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

2～10秒	設定した時間だけ画像を表示します。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

撮影直後の画面表示を変える

撮影後の画像表示を変えることができます。

- ［レビュー情報］を選び、◀か▶を押して項目を選びます。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（p.45）になります。
ピント確認	AFフレームの位置を拡大表示して、ピントを確認することができます。操作方法は、「ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー)」（p.120）と同じです。

情報の表示内容を設定する

DISP.ボタンを押したときの表示状態や、液晶モニターとビューファインダーに表示される情報の表示／非表示を設定できます。

- ［情報表示設定］を選び、(FUNC./SET)を押します。
- DISP.ボタンを押したときの表示状態を設定するには、DISP.ボタンを押したときに表示しない表示先（［1］［2］［1］［2］）を、▲▼◀▶を押して選び、(FUNC./SET)を押します。ただし、設定中に表示している表示先は非表示にできません。
- ▶［⊘］がつきます。
- 情報の表示／非表示を設定するには、▲▼◀▶を押して項目を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶［✓］のある項目が表示されるようになります。

撮影情報	撮影情報（p.44）が表示されます。
グリッドライン	格子線が画面に表示されます。
3:2ガイド	上下に灰色の帯が表示されます。この部分は縦横比が3:2の用紙に印刷されません。
ヒストグラム	**P**、**Tv**、**Av**、**M**で、ヒストグラム（p.47）が表示されます。

シャッターボタンを半押しして情報表示設定画面から撮影画面に戻ると、設定内容は保存されません。

項目が灰色になっていても設定できますが、撮影モードによっては表示できない場合があります。

手ブレ補正の設定を変える

- ［手ブレ補正］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

入	常時手ブレを補正します。画面上で補正効果が確認できるため、構図の確認やピント合わせがしやすくなります。
撮影時	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
流し撮り	上下方向だけブレを補正します。横方向に動いているものをカメラで追いかけて撮影するときに適しています。

- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。
- ［流し撮り］は、カメラを横位置にして撮影します。カメラが縦位置では補正されません。

S ボタンによく使う機能を登録する

- ［ショートカット登録］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲▼◀▶を押すか(◎)を回して、登録する項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- S ボタンを押すと、登録した機能が呼び出されます。

- ボタン登録を解除するときは［ ］を選びます。
- アイコン右下の［⃠］は、設定している撮影モードや設定している機能の状態では使えないことを示しています。
- ［ ］では、 ボタンを押すたびに白データの取り込みが行われ（p.74）、ホワイトバランスも［ ］に設定されます。
- ［AFL］では、 ボタンを押すたびにピント位置が調整されたあと固定され、画面に［AFL］が表示されます。
- ［ ］では、 ボタンを押すと液晶モニターとビューファインダーの表示が消えます。次のいずれかの操作で復帰します。
  - 電源ボタン以外のボタンを押す
  - カメラの縦・横の向きを変える
  - 液晶モニターを開閉する
  - ストロボを開閉する

よく使う撮影メニューを登録する

メニューの［★］タブは、撮影メニューの項目を、自分好みに登録できます。よく使う撮影メニューをマイメニューに登録すると、メニューが1つの画面に表示できるため、すばやく設定変更できます。

1 ［マイメニューの設定］を選ぶ

- ［★］タブの［マイメニューの設定］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 登録する撮影メニューを選ぶ

- ▲か▼を押して［表示設定］を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▲か▼を押して登録したいメニュー（5つまで）を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶［✓］が表示されます。
- 登録を解除するときは、(FUNC./SET)を押して［✓］を消します。

- MENUボタンを押します。

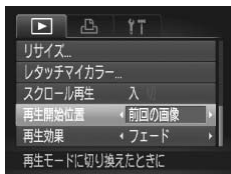
3 メニューの表示順を変える

- ▲か▼を押して［並べ替え］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して表示順を変えたいメニューを選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して表示順を変え、(FUNC/SET)を押します。
- MENUボタンを押します。

- 手順2で、項目が灰色になっていても設定はできますが、撮影モードによっては使えない場合があります。
- ［優先表示］を選び、◀か▶を押して［する］を選ぶと、撮影モードでMENUボタンを押したときに、すぐにマイメニューを表示することができます。

再生機能を変える

▶ボタンを押して、メニューの［▶］タブで設定できます（p.49）。

再生したときに表示する画像を選ぶ

- ［再生開始位置］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

前回の画像	再生したときに、前回最後に再生した画像が表示されます。
最新の画像	再生したときに、撮影した最新画像が表示されます。

カメラの起動画面や音を変える

メニューの［¥†］タブで、カメラの各種動作音や、電源を入れたときに表示される起動画面を変えられます。

音を変える

- ［音の選択］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選びます。
- ◀か▶を押して変更します。

1	オリジナルの音が登録されています。
2	付属のソフトウェアを使って登録することができます（p.153）。

起動画面を変える

- ［起動画面］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押して変更します。

☒	起動画面は表示されません。
1	オリジナルの画像が登録されています。
2	撮影した画像を登録できます。

撮影した画像を起動画面にする

▶ボタンを押して、再生モードにすると登録できます。

- ［起動画面］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押して［2］を選び、(FUNC/SET)を押します。

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して[OK]を選び、(FUNC/SET)を押すと登録されます。

起動画面を登録すると、以前の登録内容は消えます。

付属のソフトウェアで音や起動画面を登録する

付属のソフトウェアに用意されている専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することができます。
また、CANON iMAGE GATEWAYからダウンロードした専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することもできます。
詳しくは「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

9

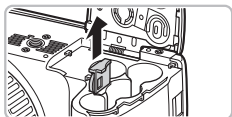
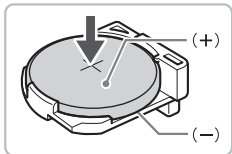
カメラを使うときに役立つ情報

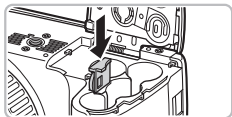
日付／時刻用電池の交換方法、別売アクセサリーの使いかた、「故障かな？と思ったら」のほか、カメラの機能一覧を掲載しています。また、章の最後には索引を掲載しています。

日付／時刻用電池を交換する

日付／時刻用電池（バックアップ電池） の電池寿命は約7年です。電源を入れるたびに、日付／時刻の設定画面が表示されるようになったら、新しい電池（CR1220）に交換します。

1 カメラの電源を切る

2 ふたを開けて単3形電池を取り出す（p.14）

3 電池ホルダーを取り出す

4 電池を入れ換える

● （+）と（−）を正しくあわせて入れます。

5 電池ホルダーを入れる

6 電池を入れて、ふたを閉める

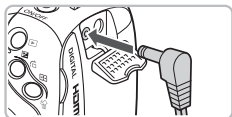
7 カメラの電源を入れて、日付／時刻を設定する（p.19）

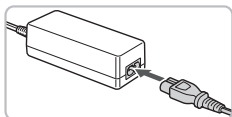
家庭用電源でカメラを使う

コンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）を使うと、電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カメラの電源を切る

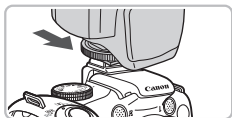
2 プラグをカメラにつなぐ

- カバーを開き、アダプターのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。

3 電源コードを取り付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。

外付けストロボ（別売）を使う

別売の外付けストロボを使うと、より自然で鮮明なストロボ撮影ができます。ホワイトバランスは［⚡］に設定することをおすすめします。

- 外付けストロボを取り付けているときは、内蔵ストロボを設定できません。
- スピードライト 220EX、270EX、430EX II、580EX IIの機能の一部は、このカメラでは使えません。
- スピードライトEXシリーズ以外のキヤノン製ストロボでは、発光しない場合があります。また、赤目自動補正はできません。
- 他社のストロボ（特に高圧タイプのストロボ）やストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となったりすることがあります。

1 カメラ上部のアクセサリーシューに取り付ける

2 外付けストロボの電源を入れ、カメラの電源を入れる

▶［⚡］（赤色）が表示されます。

▶ストロボの充電が完了すると、ストロボのパイロットランプが点灯します。

3 ストロボ設定画面を表示する

- ［📷］タブの［ストロボ制御］を選び、(FUNC. SET)を押します。

▶ストロボで設定した内容が表示されます。

4 設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して設定したい項目を選び、◀か▶で設定します。
- 設定できる項目は、ストロボによって異なります（p.159）。
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**以外の撮影モードでは自動調光で発光するので、調光の設定は変更できません。

スピードライト 220EX、270EX、430EX II、580EX IIを使うとき

- ストロボ同調最高シャッタースピードは1/250秒です。
- ［発光モード］が［オート］のときは自動調光で発光します。自動調光時は調光補正量およびセーフティ FEを設定できます。なお、カメラ側で調光補正するときは、ストロボ側の調光補正を［＋0］に設定してください。
- ［発光モード］が［マニュアル］のとき、カメラ側またはストロボ側で発光量を調節します。なお、スピードライト 220EX、270EXはストロボ側で設定できません。撮影モードが**M**のときは、ストロボ側がE-TTL自動調光モードに設定されていても、カメラ側でストロボの発光量を設定できます。なお、ストロボの表示は［E-TTL］のままですが、マニュアル発光します。また、ストロボ側で調光補正値を変更すると発光量が変更されます。
- カメラで設定できる項目は次のとおりです。

項目	選択項目	撮影モード			
		P	Tv	Av	M
発光モード	オート / マニュアル	○	○	○	＊1
調光補正	−3〜＋3	○	○	○	—
発光量	1/128＊2〜1/1（1/3段ステップ）	○	○	○	○
シンクロ設定	先幕 / 後幕 / ハイスピード＊3	○	○	○	○
スローシンクロ	入 / 切	○	＊4	○	＊4
ワイヤレス機能＊5	入 / 切	○	○	○	○
赤目自動補正	入 / 切	○	○	○	○
赤目緩和ランプ	入 / 切	○	○	○	○
セーフティ FE	入 / 切	○	○	○	＊6
ストロボ設定初期化＊7	すべての設定を初期状態に戻します	○	○	○	○

＊1［マニュアル］固定。
＊2 スピードライト 220EX、270EX、430EX IIでは1/64。
＊3 スピードライト 220EXでは設定不可。
＊4［入］固定。
＊5 入／切以外はストロボ側で設定。スピードライト 220EX、430EX IIでは設定不可。
［入］のとき［シンクロ設定］の［後幕］は設定不可（カメラ側で［後幕］に設定していても、［先幕］に変更されます）。
＊6［切］固定。
＊7［スローシンクロ］［セーフティ FE］［赤目自動補正］［赤目緩和ランプ］は、カメラの［ƒ†］メニューの［初期設定］でも初期状態に戻ります（p.52）。スピードライト 220EXでは設定不可。

- 発光モード、調光補正、発光量、シンクロ設定、ワイヤレス機能は、カメラの電源を入れたときに、ストロボ側の設定が反映されます。
- p.159の表以外で使用できる機能は、次のとおりです。
  - 自動調光（E-TTLモードにしてください。）
  - FEロック機能（［発光モード］が［オート］時）
  - オートズーム機能（スピードライト 220EX、270EXには搭載されていません。）

- ストロボおよびスピードライトトランスミッターの使用説明書もあわせてご覧ください。
- 連続撮影時、ストロボがクイック発光（パイロットランプが緑色点灯）の状態でも撮影できます。なお、フル発光（パイロットランプが赤色点灯）時に比べ、ストロボの発光量が少なくなることがあります（580EX IIのみ）。
- ストロボ側でマルチ発光に設定されているときは、ストロボの設定メニューは選択できません（580EX IIのみ）。
- スピードライト 380EX、420EX、430EX、550EX、580EXも同様に使えます。

スピードライトEXシリーズ以外のキヤノン製ストロボを使うとき

フル発光しますので、ストロボの取扱説明書に記載されたガイドナンバーを参考にして、被写体との距離から、絞り数値とISO感度を最適値に設定してください。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考に確認してください。問題が解決しないときは、別紙の相談窓口へご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- 電池が正しい向きで入っているか確認してください（p.14）。
- 指定された電池で、残量があることを確認してください（p.15）。
- カードスロットまたは電池収納部ふたが閉じているか確認してください（p.14）。
- 電池の電極が汚れていると電池性能が低下します。綿棒などで電極を拭き、電池を数回入れなおしてください。

電池の消耗が早い

- 低温下では電池性能が低下します。電極が金属と接触しないようにして、ポケットなどで電池を温めてからお使いください。

レンズが出たままで収納されない

- 電源を入れたまま、カードスロットまたは電池収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.14）。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.122）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.27）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.23）。

画面が表示されない（p.26）

暗い場所での画面表示がおかしい（p.46）

撮影中の画面表示がおかしい

以下の場合、撮影画像には記録されませんが動画には記録されます。注意してください。

- カメラに強い光があたると、表示が黒くなることがあります。
- 蛍光灯下で撮影すると、画面がちらつくことがあります。
- 明るい光源を撮影すると、画面に赤紫色の帯が表示されることがあります。

シャッターボタンを押したら、画面に［⚡］が点滅表示されて撮影できない（p.25）

シャッターボタンを半押ししたときに、［手ブレ警告］が表示される（p.25）

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.149）。
- ストロボを上げて、ストロボ撮影してください（p.69）。
- ISO感度を高くしてください（p.73）。
- 三脚などでカメラを固定してください。

画像がボケて撮影されている
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.23）。
- 撮影距離範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.173）。
- ［AF補助光］を［入］にしてください（p.146）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.79、85）。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない
- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる
- ストロボを上げて、ストロボ撮影してください（p.69）。
- 露出補正で明るさを調整してください（p.69）。
- i-コントラスト機能で補正してください（p.96、135）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.90）。

被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボを下げて、ストロボを［⊛］にしてください（p.25）。
- 露出補正で明るさを調整してください（p.69）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.90）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になった（p.26）
- ISO感度を高くしてください（p.73）。
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.69）。
- ストロボの調光補正量や発光量を調整してください（p.98、99）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.69）。
- ストロボを下げて、ストロボを［⊛］にしてください（p.25）。
- ストロボの調光補正量や発光量を調整してください（p.98、99）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る
- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる
- ISO感度を低くして撮影してください（p.73）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.59、61）。

目が赤く写る（p.97）
- ［赤目緩和ランプ］を［入］に設定してください（p.147）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）が点灯（p.42）して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.53）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって異なります。「撮影機能／FUNC.メニュー 一覧」（p.166）でご確認ください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が撮影されています（p.32）。

液晶モニターにバッファー警告（p.44）がいっぱいまで表示され、撮影が自動的に終了した

カメラの内部メモリーが少なくなりました。以下の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.53）。
- 画質を変える（p.108）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（p.108）。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで初期化したカードをお使いください（p.53）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルで接続しているときは、以下の操作で画像の取り込みスピードを遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- MENUボタンを押した状態でさらに▲と(FUNC/SET)を同時に押し、表示された画面で［B］を選択して(FUNC/SET)を押す。

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、以下のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.16）。

ライトプロテクト

- SDカード、SDHCカードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.17）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.16）。

カードが異常です（p.53）

- 別紙の相談窓口へご相談ください。

カードがいっぱいです

- カードの空き容量がないため、撮影（p.24、57、67、81）や編集（p.132～136）はできません。画像を消して（p.28、127）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.16）。

バッテリーを交換してください（p.14）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.124）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／再生できません（AVI）／RAW

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／登録できない画像です／処理できません／指定できない画像です

- 非対応の画像は、拡大（p.121）、回転（p.131）、編集（p.132～136）、起動画面への登録（p.152）、カテゴリー分け（p.129）、印刷指定（p.138）はできません。
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、拡大、回転、編集、起動画面への登録、カテゴリー分け、印刷指定はできないことがあります。
- 動画は、拡大（p.121）、編集（p.132～136）、印刷予約（p.137）、起動画面への登録（p.152）はできません。

指定できません

- 画像を範囲指定（p.125、128、140）するとき、始点に終点より遅い番号の画像、または終点に始点より早い番号の画像を指定しようとしました。
- 範囲指定（p.125、128、140）で、501画像以上を指定しようとしました。

指定が多すぎます

- 印刷指定の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします（p.138）。

指定完了できませんでした

- 印刷指定を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します（p.138）。

ファイル名が作成できません

- カメラが作成しようとしたフォルダ名、画像のファイル名と同じファイル名があるときや、画像番号が最大値になっているため、フォルダや画像が作成できません（p.145）。[ΥΥ] メニューで［画像番号］を［オートリセット］に変えるか（p.144）、カードを初期化します（p.53）。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

レンズエラーを検知しました

- レンズの不具合を検知しました。電源ボタンを押して、電源を入れなおします（p.43）。ただし、頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の相談窓口へご相談ください。
- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。

Exx（エラー番号）

- カメラがエラーを検知しました。電源ボタンを押して、電源を入れなおします（p.43）。
- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、「xx」の番号を控えて、別紙の相談窓口へご相談ください。

撮影機能／FUNC.メニュー 一覧

機能		C	M	Av	Tv	P
露出補正（p.69）/ 露出シフト（p.111）		＊1	–	○	○	○
ISO感度（p.73）	ISO AUTO	＊1	–	○	○	○
	ISO 80 ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600	＊1	○	○	○	○
セルフタイマー（p.65、66、77、78）	OFF 10 2	＊1	○	○	○	○
		＊1	○	○	○	○
	C	＊1	○	○	○	○
ストロボ（p.25、69、92）＊3	A	＊1	–	–	–	○
		＊1	○	○	○	○
		＊1	–	○	–	○
		＊1	–	–	–	–
プログラムシフト（p.90）		＊1	–	○	○	○
AEロック / FEロック（p.90、91、111）		＊1	–	○	○	○
AFロック（p.85）		＊1	○	○	○	○
撮影領域（p.72）		＊1	○	○	○	○
		＊1	○	○	○	○
	S	＊1	○	○	○	○
	全領域＊5	–	–	–	–	–
マニュアルフォーカス		＊1	○	○	○	○
AFフレームの位置・大きさ変更		＊1	○	○	○	○
顔セレクト（p.86）		＊1	○	○	○	○

FUNC.メニュー 一覧						
ホワイトバランス（p.74）	AWB	＊1	○	○	○	○
		＊1	○	○	○	○
マイカラー（p.76）	OFF	＊1	○	○	○	○
	V N Se BW P L D B G R C	＊1	○	○	○	○
ブラケット（p.89、91）	OFF	＊1	○	○	○	○
		＊1	○	○	○	○
ストロボ調光補正（p.98）		＊1	–	○	○	○
発光量設定		＊1	○	○	○	–
測光モード（p.87）		＊1	○	○	○	○
	[ ]	＊1	○	○	○	○
ドライブモード（p.75）		＊1	○	○	○	○
		＊1	○	○	○	○
	AF ＊6	＊1	○	○	○	○
記録画素数（p.70、108）、圧縮率（画質）（p.70）		＊1	○	○	○	○

＊1 設定できる内容は登録されている撮影モードに従う　＊2 ISO3200に固定　＊3 ストロボ収納時は［ ］固定、その他はストロボを上げたときに選択可　＊4 選択不可ただし発光時は常時［入］　＊5［ ］領域を除く

AUTO					SCN											
													ISO 3200	ƒA ƒS		
―	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	―	―	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊2	○	○	○
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―		―	―	―
○	○	○	○	―	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	―	○	○	○	―	○	○	○	○	○	―	―	―
○	○	○	○	―	○	○	○	○	○	○	○	○	○	―	―	―
○	○	○	○	―	○	○	○	―	○	―	○	○	―	○	―	―
―	○	○	○	―	○	○	○	―	○	○	○	○	―	○	○	―
―	―	＊4	＊4	―	―	＊4	＊4	―	―	―	―	―	―	―	○	―
―	―	―	―	○	―	―	―	○	―	―	―	―	○	―	―	―
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	○
―	○	○	○	○	○	○	○	―	○	○	○	○	○	○	○	○
―	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
―	○	―	○	―	○	―	○	―	○	○	○	○	○	○	○	―
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	○	―	○
○	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
―	○	○	○	―	○	○	○	―	○	○	○	○	○	○	―	○
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
○	○	○	○	―	○	○	○	―	○	○	○	○	○	○	―	○
FUNC.メニュー 一覧																
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	○	＊7
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	―	○	○
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
―	―	―	―	○	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊8	○	＊9	○

＊6［MF］時、［ ］時は［ ］　＊7［ ］は不可　＊8 記録画素数は［M3］固定
＊9 記録画素数の［W］は選択不可

○選択可能または自動設定　―選択不可

メニュー 一覧

撮影タブメニュー 一覧

機能 ＼ 撮影モード			C	M	Av	Tv	P
AFフレーム（p.82）	顔優先		＊1	○	○	○	○
	アクティブ		＊1	○	○	○	○
	中央		＊1	–	–	–	–
デジタルズーム（p.62）	入		＊1	○	○	○	○
	切		＊1	○	○	○	○
	テレコン1.5x / テレコン2.0x		＊1	○	○	○	○
ピント位置拡大（p.84）	入 / 切		＊1	○	○	○	○
サーボAF（p.85）	入 / 切		＊1	○	○	○	○
コンティニュアスAF	入 / 切		＊1	○	○	○	○
AF補助光（p.146）	入 / 切		＊1	○	○	○	○
MF拡大表示	入 / 切		＊1	○	○	○	○
セーフティ MF（p.88）	入 / 切		＊1	○	○	○	○
ストロボ制御（p.97、98、99、100、147）	発光モード	オート	＊1	–	○	○	○
		マニュアル	＊1	○	○	○	–
	調光補正	−2~＋2	＊1	–	○	○	○
	発光量	小 / 中 / 大	＊1	○	○	○	–
	シンクロ設定	先幕 / 後幕	＊1	○	○	○	○
	赤目自動補正	入 / 切	＊1	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ	入 / 切	＊1	○	○	○	○
	セーフティ FE	入 / 切	＊1	–	○	○	○
i-コントラスト（p.96）	自動 / 切		＊1	○	○	○	○
スポット測光枠（p.87）	中央固定 / AF枠連動		＊1	○	○	○	○
セーフティシフト（p.94）	入 / 切		＊1	–	○	○	–
動画音声（p.110）	マイク（オート / マニュアル＊3）、ウィンドカット		＊1	○	○	○	○
撮影の確認（p.147）	切 / 2～10秒 / ホールド		＊1	○	○	○	○
レビュー情報（p.147）	非表示 / 詳細表示 / ピント確認		＊1	○	○	○	○
目つむり検出（p.101）	入 / 切		＊1	○	○	○	○
情報表示設定（p.148）＊2	撮影情報		＊1	○	○	○	○
	グリッドライン		＊1	○	○	○	○
	3:2ガイド		＊1	○	○	○	○
	ヒストグラム		＊1	○	○	○	○
鏡像表示（p.18）	入 / 切		＊1	○	○	○	○
手ブレ補正（p.149）	入 / 切 / 撮影時 / 流し撮り		＊1	○	○	○	○
日付写し込み（p.64）	切 / 日付のみ / 日付+時刻		＊1	○	○	○	○
ショートカット登録（p.149）			＊1	○	○	○	○
カスタム登録（p.102）			○	○	○	○	○

＊1 設定できる内容は登録されている撮影モードに従う　＊2［自動］固定　＊3 入力レベル設定可能
＊4［入］固定　＊5 静止画撮影時のみ有効　＊6 顔が検出されないときは9点

AUTO					SCN											
													ISO 3200	A S		
＊6	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	ー	＊5
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊5
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	ー	ー	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	ー	ー	ー
○	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	ー
＊7	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	ー	ー
＊4	○	○	○	＊4	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	○	＊4
○	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	○	○
ー	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	ー	ー
ー	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	ー	○
○	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	ー	○	○	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
○	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	ー	ー	ー	ー
○	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	ー	○	○	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
＊2	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	ー
○	○	○	○	ー	○	○	○	ー	○	○	○	○	ー	○	ー	ー
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○
＊4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	ー	ー
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

＊7 動きを検出したときは［入］

○選択可能または自動設定　△選択のみ可能　ー選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
消音	する / しない*	p.50
音量	各種操作音を5段階に設定	p.50
音の選択	各種動作音の選択	p.152
機能ガイド	入* / 切	p.144
液晶の明るさ	±2の範囲で設定	p.51
起動画面	起動画面の選択と登録	p.152
カードの初期化	記録内容を初期化して消去	p.22、53
画像番号	通し番号* / オートリセット	p.144
フォルダ作成	毎月* / 毎日	p.145
レンズ収納時間	1分* / 0秒	p.145
節電	オートパワーオフ：入* / 切 ディスプレイオフ：10～30秒 / 1*～3分	p.54
エリア設定	自宅 / 訪問先	p.143
日付 / 時刻	日付 / 時刻の設定	p.20
距離表示	m/cm* / ft/in	p.145
ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.122
言語	表示言語を選択	p.21
初期設定	カメラの設定を初期状態に戻す	p.52

* 初期設定

▶ 再生タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
スライドショー	画像の自動再生	p.119
消去	画像の一括消去	p.127
保護	画像の保護	p.124
回転	画像の縦横回転	p.131
マイカテゴリー	画像の分類	p.129
i-コントラスト	静止画の暗い部分やコントラストを補正	p.135
赤目補正	静止画の赤目部分を補正	p.136
トリミング	静止画の切り抜き	p.133
リサイズ	静止画を小さくして保存	p.132
レタッチマイカラー	静止画の色調を変える	p.134
スクロール再生	入* / 切	p.117
再生開始位置	前回の画像* / 最新の画像	p.151
再生効果	フェード* / スライド1 / スライド2 / 切	p.121

* 初期設定

印刷タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
印刷	印刷画面を表示	p.29
印刷する画像を指定	印刷する画像を1枚ずつ指定	p.139
範囲で指定	印刷する画像を、始点／終点の範囲で指定	p.140
すべての画像を指定	すべての画像を印刷する画像に指定	p.140
すべての指定を解除	すべての印刷指定を解除	p.140
印刷の設定	印刷のスタイルを設定	p.138

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、メガネ拭きなどのやわらかい布で拭きとってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の相談窓口にご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。電池、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

Ni-MH

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

主な仕様

項目	仕様
カメラ部有効画素数	約1210万画素
撮影素子	1/2.3型CCD（総画素数 約1240万画素）
レンズ	5.0（W）－ 100.0（T）mm 35mmフィルム換算：28（W）－ 560（T）mm F2.8（W）－ F5.7（T）
デジタルズーム	約4.0倍（光学ズームと合わせて最大80倍相当）
ビューファインダー	0.44型TFTカラー 約23.5万ドット、視野率100% 視度調節：－6.0 ～ +2.0m-1 (dpt)
液晶モニター	2.5型TFT液晶カラーモニター 約23.0万ドット、視野率100%
AFフレームモード	顔優先 / 中央 / アクティブ
サーボAF	入 / 切
撮影距離（レンズ先端より）	オート：10cm～∞（W）、1m～∞（T） 通常撮影：50cm～∞（W）、1m～∞（T） マクロ：10～50cm（W） スーパーマクロ：0～10cm（W） スポーツ：1m～∞（W）、4m～∞（T） マニュアルフォーカス：10cm～∞（W）、1m～∞（T）
シャッター	メカニカルシャッター・電子シャッター
シャッタースピード	1～1/3200秒 15～1/3200秒（すべての撮影モードをあわせたシャッタースピード範囲）
手ブレ補正	レンズシフト方式
測光方式	評価 / 中央部重点平均 / スポット
露出補正	±2段（1/3段ステップ）
ISO感度（標準出力感度・推奨露光指数）	オート、ISO80 / 100 / 200 / 400 / 800 / 1600
ホワイトバランス	オート / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / ストロボ / マニュアル
内蔵ストロボ	オート / 常時発光 / スローシンクロ / 発光禁止 * ストロボ調光補正 / 発光量 / 後幕シンクロ / 赤目自動補正 / 赤目緩和ランプ / FEロック/ セーフティFE設定可能
内蔵ストロボ調光範囲	50cm～6.8m（W）/ 1.0～3.7m（T）
外付けストロボ接点	アクセサリーシュー部シンクロ接点
撮影モード	C / M / Av / Tv / P / オート / ポートレート / 風景 / ナイトスナップ / スポーツ / SCN / スティッチアシスト / 動画 SCNモード：パーティ・室内 / 夕焼け / 夜景 / 打上げ花火 / ビーチ / 水族館 /新緑・紅葉 / スノー / ISO3200 / ワンポイントカラー / スイッチカラー
連続撮影	連続撮影：約1.0枚/秒 AF連続撮影：約0.7枚/秒 LV連続撮影：約0.7枚/秒
セルフタイマー	顔セルフ / 10秒 / 2秒 / カスタム
i-コントラスト	自動 / 切

記録媒体	SDメモリーカード / SDHCメモリーカード / MMCカード / MMCplusカード / HC MMCplusカード
ファイルフォーマット	DCF準拠*、DPOF対応 * DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。
データタイプ	静止画：Exif 2.2（JPEG） 動画：MOV（画像：H.264、音声：リニアPCM（ステレオ））
圧縮率	ファイン / ノーマル
記録画素数（静止画）	ラージ：4000×3000画素、ミドル1：3264×2448画素 ミドル2：2592×1944画素、ミドル3：1600×1200画素 スモール：640×480画素、ワイド：3840×2160画素
（動画）	1280×720画素（30フレーム/秒） 640×480画素（30フレーム/秒） 320×240画素（30フレーム/秒）
撮影可能枚数	液晶モニター表示時：約340枚（CIPA測定法準拠） ビューファインダー表示時：約350枚
再生機能	1画像再生 / 動画再生 / ピント位置拡大 / インデックス再生 / 拡大再生 / 絞り込み再生 / スライドショー / スクロール再生
編集機能	消去 / 保護 / マイカテゴリー / リサイズ / レタッチマイカラー / i-コントラスト / トリミング / 回転 / 赤目補正
ダイレクトプリント方式	PictBridge対応
インターフェース	Hi-Speed USB（デジタル・音声・映像一体型専用コネクター*） HDMI（HDMIミニコネクター） * mini-B互換 映像/音声出力（NTSCまたはPAL切換可能、ステレオ音声）
通信プロトコル設定	MTP、PTP
電源	単3形アルカリ電池4本 単3形ニッケル水素電池4本（NB-3AH別売） コンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）
動作温度	0～40℃
動作湿度	10～90%
大きさ（突起部を除く）	124.0×88.3×86.9mm
質量（本体のみ）	約560g

レンズフード LH-DC50

最大径×長さ	69.7mm×30.0mm
質量	約10g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様、および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索引

【た】

【な】

【は】

【ま】

【や】

【ら】

【わ】

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

妨害電波自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

商標について

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- SDHCロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing,LLCの商標または登録商標です。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- 内容については万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれなど、お気付きの点がありましたら、別紙の相談窓口までご連絡ください。
- このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

MPEG-4使用許諾について

This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

＊規定により英語で表記しています。

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター　050-555-90005

受付時間：平日 9：00～20：00／土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

CDI-J402-030　XXXXXXX PRINTED IN JAPAN